

2003

子どもゆめ基金

ガイド



独立行政法人
国立オリンピック記念青少年総合センター

子どもゆめ基金

目次

CONTENTS

「子どもゆめ基金」について	1	
「子どもゆめ基金」の概要	2	
平成14年度応募・採択状況	4	
平成14年度助成活動事例 <small>(子どもの体験活動)</small>	6	
平成14年度助成活動事例 <small>(子どもの読書活動)</small>	21	
平成14年度助成活動事例 <small>(教材開発・普及活動)</small>	27	
平成15年度応募・採択状況	32	
子ども読書の日記念 “子どもの読書活動推進フォーラム”	34	
日中韓子ども童話交流事業	37	
「子どもゆめ基金」への寄附団体	40	

「子どもゆめ基金」について

今日、社会全体のモラルの低下、地域社会の教育力の低下、メディア上の有害情報の氾濫など子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しており、自分自身で考え創造する力、他人への思いやりの精神が身につけていないと指摘されています。また、子どもたちの社会性を育成する観点から、自然体験活動等の体験活動の充実や、言葉の教育の重視などが提言されております。

このような状況を踏まえて、「子どもゆめ基金」は、超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子どもの未来のために有意義な基金の創設を発意し、同議

員連盟が中心となって検討を進めてきたものを受け、平成13年4月に独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター法が改正され、さらに、平成13年度政府予算において措置された政府からの出資金100億円に加え、民間からの寄附を原資とする基金として創設されました。

この基金は、21世紀を担う夢を持った子どもの健全な育成の一層の推進を図ることを目的に、民間団体が実施する特色ある新たな取組や、体験活動等の裾野を広げるような活動を中心に、様々な体験活動や読書活動等への支援を行っています。



「子どもゆめ基金」の概要

助成金の交付

助成対象活動

子どもの体験活動の振興を図る活動への助成

【活動例】

①子どもを対象とする体験活動

- 自然観察、キャンプなどの自然体験活動
- 清掃活動、高齢者介護体験などの社会奉仕体験活動 など

②子どもの体験活動を支援する活動

- 子どもの体験活動の指導者養成 など



子どもの読書活動の振興を図る活動への助成

【活動例】

①子どもを対象とする読書活動

- 読書会活動、読み聞かせ会 など

②子どもの読書活動を支援する活動

- 子どもの読書活動の振興を図るフォーラムの開催 など



子ども向けソフト教材を開発・普及する活動への助成

【活動例】

- 子どもの体験活動や読書活動を支援・補完する、インターネット等で利用可能なデジタル教材を開発し、普及する活動



助成対象団体

民法法人、NPO法人など青少年教育に関する事業を行う民間の団体

普及啓発

子どもの体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発

助成金の額

個別の助成活動に対する助成金の額は、予算の範囲内で、審査委員会の議を経て決定されます。

審査方法

子どもゆめ基金における助成対象活動の決定については、子どもゆめ基金による助成金の交付を適正に行うため、自然体験活動や社会奉仕体験活動等の体験活動、読書活動、教材開発などの分野において実務経験を持ち、かつ青少年教育に高い識見を有する15名の委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」を設置し、そのもとに分野別に3つの部会、5つの専門委員会を置き、各分野の実情及び特性を踏まえて審査を行います。

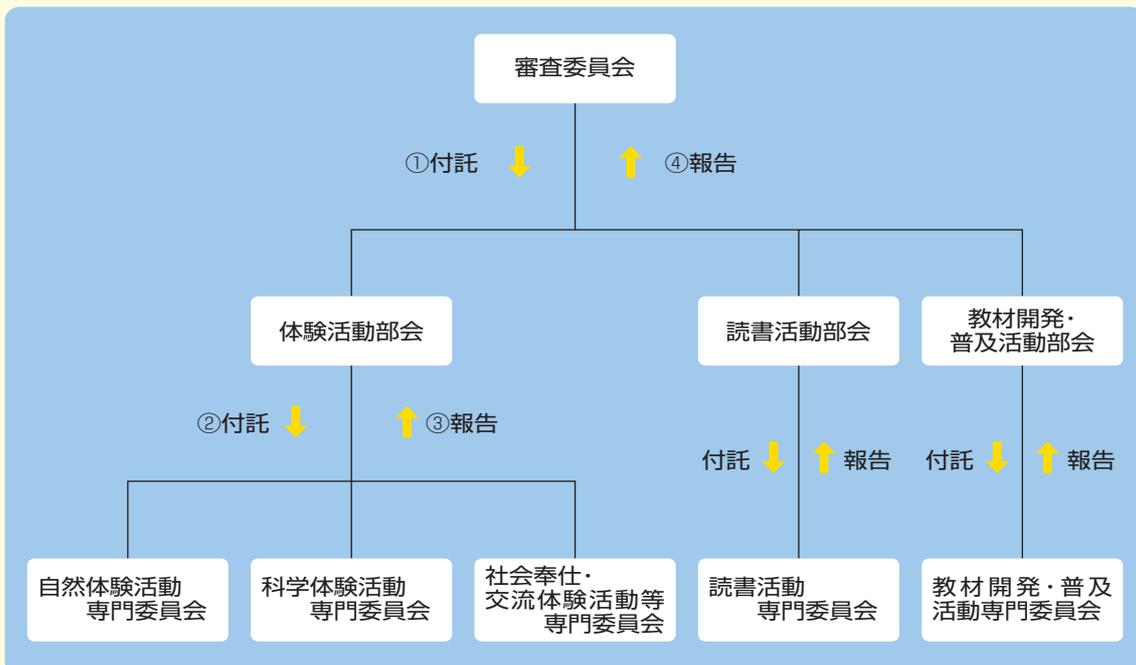
応募のあった活動については、センター理

事長から審査委員会へ助成対象活動の採択について諮問を行い、これを受けて審査委員会から部会へ、さらに専門委員会へと順次調査審議の付託を行います。

専門委員会の審査は、審査委員会で決定された「子どもゆめ基金助成活動の審査の方法等について」に則り、各団体から提出のあった助成金計画調書について、各専門委員が専門的見地から評価し、合議により助成対象活動の評定(選定)を行います。

各部会では、各専門委員会での審査結果をもとに、採択すべき助成活動及び助成金の額について審議を行い、この結果を審査委員会に報告します。

これを受けて審査委員会において審議を行い、採択する活動及び助成金額を決定します。



平成14年度 応募・採択状況

◇活動区分別応募・採択状況

(単位:千円)

活動区分	応募件数	採択件数	助成額
子どもの体験活動	1,813	1,590	1,141,906
子どもの読書活動	352	322	129,104
教材開発・普及活動	80	28	278,804
合計	2,245	1,940	1,549,814

◇子どもの体験活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	助成額
北海道	74	70	41,928
青森県	15	15	5,607
岩手県	32	32	8,534
宮城県	26	22	12,931
秋田県	15	13	3,894
山形県	16	16	5,917
福島県	29	26	15,969
茨城県	39	37	26,055
栃木県	25	23	7,641
群馬県	13	13	7,062
埼玉県	50	40	17,747
千葉県	51	43	23,111
東京都	216	190	389,481
神奈川県	57	50	29,667
新潟県	30	29	17,439
富山県	24	23	17,838
石川県	11	10	3,753
福井県	18	17	9,326
山梨県	19	17	11,684
長野県	75	62	43,963
岐阜県	31	28	17,974
静岡県	50	42	32,462
愛知県	32	25	22,108
三重県	26	22	17,034

都道府県	応募件数	採択件数	助成額
滋賀県	70	61	27,247
京都府	109	89	42,281
大阪府	151	132	71,617
兵庫県	68	59	27,769
奈良県	18	15	6,940
和歌山県	20	16	4,861
鳥取県	8	8	3,815
島根県	18	16	7,612
岡山県	26	23	8,381
広島県	11	9	5,154
山口県	27	22	8,013
徳島県	41	36	26,099
香川県	12	11	5,654
愛媛県	15	14	5,743
高知県	12	12	6,710
福岡県	62	50	27,966
佐賀県	15	14	5,078
長崎県	28	26	10,336
熊本県	30	26	19,203
大分県	11	10	3,085
宮崎県	13	11	3,742
鹿児島県	63	56	16,598
沖縄県	11	9	8,877
合計	1,813	1,590	1,141,906

※応募団体の所在地である都道府県別に集計した件数・金額である。(以下、同じ)

◇子どもの読書活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	助成額
北海道	12	11	5,334
青森県	2	2	1,231
岩手県	9	7	1,753
宮城県	2	1	249
秋田県	1	1	125
山形県	6	6	1,513
福島県	12	12	4,076
茨城県	5	5	1,497
栃木県	6	6	1,998
群馬県	0	0	0
埼玉県	6	5	1,709
千葉県	7	7	1,274
東京都	33	32	13,166
神奈川県	11	10	5,907
新潟県	7	6	1,493
富山県	2	1	42
石川県	4	4	2,601
福井県	3	3	453
山梨県	3	3	568
長野県	19	17	4,151
岐阜県	2	2	833
静岡県	7	5	1,250
愛知県	3	2	184
三重県	1	0	0

都道府県	応募件数	採択件数	助成額
滋賀県	18	18	8,604
京都府	23	21	7,873
大阪府	40	35	12,042
兵庫県	8	7	6,119
奈良県	5	5	3,346
和歌山県	4	2	512
鳥取県	2	2	4,430
島根県	8	8	2,970
岡山県	7	5	1,698
広島県	2	2	1,172
山口県	3	3	1,471
徳島県	5	5	1,687
香川県	4	3	967
愛媛県	4	3	276
高知県	1	1	833
福岡県	19	18	5,331
佐賀県	5	5	2,413
長崎県	2	2	199
熊本県	5	5	3,710
大分県	3	3	677
宮崎県	6	6	2,846
鹿児島県	13	13	3,445
沖縄県	2	2	5,076
合計	352	322	129,104

◇教材開発・普及活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	助成額
北海道	4	2	32,351
宮城県	1	1	12,694
福島県	1	0	0
茨城県	1	0	0
群馬県	1	1	4,450
埼玉県	1	0	0
千葉県	1	0	0
東京都	32	11	107,062
神奈川県	4	2	15,055
山梨県	1	1	7,743
長野県	1	1	6,720
岐阜県	4	2	19,790

都道府県	応募件数	採択件数	助成額
静岡県	1	1	15,136
愛知県	4	2	21,919
京都府	2	1	4,344
大阪府	10	1	13,483
兵庫県	2	1	11,100
和歌山県	1	0	0
岡山県	1	0	0
広島県	1	0	0
愛媛県	1	0	0
福岡県	3	0	0
長崎県	1	1	6,957
大分県	1	0	0
合計	80	28	278,804

くりこま高原パイオニアキャンプ2002夏

実施団体名 くりこま高原自然学校

連絡先 〒989-5371 宮城県栗原郡栗駒町沼倉耕英中57-1

TEL : 0228-46-2626 FAX : 0228-46-2627

E-mail : kurikoma@ma.newweb.ne.jp URL : http://www1.newweb.ne.jp/wa/kurikoma/

活動の概要

豊かな自然に恵まれ、開拓の歴史ある栗駒町耕英地区を拠点に、様々な自然体験活動及び生活体験を通じて、自然との関わりや共に過ごす仲間との関わりを学ぶ。さらに、地域住民との関わりの中から、自然と共に生き抜いた開拓の精神を学ぶ。そして、13泊14日のキャンプという長期間の自然体験活動をやり遂げることで、青少年の「生きる力」を育む。

活動の内容

初日はキャンプ全体の導入として位置づけて、班分けは行わず、参加者がキャンプ生活になれるようにゆっくりとプログラムを進めた。1日目の子どもの様子を参考に、2日目に班分けを行い、以後は班での活動を中心としてキャンプを進めた。

キャンプ前半は、自然学校敷地内の森でテントサイト作り、そこでのテント泊、自炊を伴うキャンプ生活を行いながら、自然学校近辺の窓滝で滝つぼ遊び、炭焼き、地域の民話を地元の語り部から聞く民話の夕べといった活動を体験し、グループ作りを行った。

中盤は、自然学校近辺地域で盛んな高原農業の体験と開拓当時の生活の様子を地元の方から聞いたり、栗駒山に広がるブナの原生林を散策したり、日本で最初に岩魚の養殖を成功させた養魚場で、釣りを体験するとともに、岩魚の養殖を



いよいよリバーツーリングに出発

成功させるまでの経緯や苦勞した話を聞いた。また乗馬では、一切引き馬はせずに自分で手綱操作を修得し、馬に自分の意志を伝える努力をさせた。

後半は、このキャンプのメインプログラムである2泊3日のリバーツーリングを行った。ラフティング用ゴムボートを班ごとに1艇ずつ使い、北上川が宮城県に入ったところから下り始めて、海を目指した。途中2泊のテント泊をしながら、3日目のお昼前に追波湾まで到達した。

リバーツーリングの翌日は、生還パーティーとキャンドルファイヤーを行い、リバーツーリングやキャンプ全体を振り返る機会を設けた。

キャンプ全体を通して、キャンプでの様々な出来事が学びにつながるような指導を行った。

成果と課題

メインプログラムであるリバーツーリングは、3日間かけて北上川を下り、海まで出るといった冒険的要素の強いダイナミックな活動であった。班ごとでゴムボートを利用して下ったため、協力することで大きなことができること、苦勞を乗り越えた後の達成感、難しいことでも簡単に諦めないといったことを伝えることができた。

課題として、参加の問い合わせをいただいた中には、不登校や情緒障害等の問題を抱えた子どもからのものが数件あり、その中の数名が実際に参加した。今後もこういった悩みを抱えた子どもの参加は増加すると予想されるため、それに対応するための指導法や指導者の育成について検討していく必要がある。

団体の概要

「くりこま高原自然学校」は、宮城、秋田、岩手の三県にまたがる栗駒山の南東山麓に96年に設立。青少年のための自然体験活動をはじめ、ファミリー、一般に向けてより豊かな余暇活動、アウトドアライフを送るためのプログラムを提供するほか、教育・福祉・環境・観光・産業振興・地域振興など幅広い分野での活動に関わる。

「おたり森の子クラブ2002」

実施団体名 冒険教育を推進する会
連絡先 〒399-9601 長野県北安曇郡小谷村北小谷大綱 日本OBS内
 TEL : 0255-57-2211 FAX : 0255-57-2277

活動の概要

自分たちの生活を支える森、人だけでなく様々な生命の住処であり源である森にて、そこを拠点に基地を創り、創作的機会を提供する。また、森周辺の大自然でのチャレンジを通して、自分自身の中にある可能性、仲間との関係やかかわり、自然との繋がりに体験から気づいていく野外教育プログラムである。参加した子どもたちに、「夢中」と「本気」になる体験を提供することで、大きく心揺れる機会を提供すること。そして、将来、生きるための原点となるような体験を、創作と冒険という素材を通して提供する試みである。

活動の内容

北アルプス後立山連峰及び上信越の雨飾山山麓に位置する長野県小谷村(おたりむら)は、年々過疎の進む山村である。しかしながら、スケールの大きな山々の麓には、ツガ、ブナの原生林、ナラ林から

雑木林へと繋がる里山があり、今も生活と密着している。この原生の森と里山を舞台に、1泊2日から2泊3日の5回シリーズで実施。対象は小学3年生から中学生、毎回30名定員で実施した。なお、日々の活動後には、シェアリング(分かち合い)の時間をもち、翌日や日常へと体験を繋げて行くように意識して行った。

第1回／森から川を下る旅

雑木林からイカダの材料になる木や蔓を切りだす。翌日自分たちのチームのイカダを造り、約7kmのイカダ下りに挑戦。白波の立つ瀬にも挑戦した。

第2回／樹で作ろう自分たちの基地

自分たちで設計し、森や地形をそのまま利用した基地を造る。寝るための基地、隠れるための秘密基地、高いところに造る基地などを自分たちのコンセプトを創り実際に造った。

第3回／自分への挑戦の旅

ロッククライミングに挑戦、高さ15m垂直の岩壁に挑む。そして、

自分たちの基地を手直して、より快適でかっこよいものに改築した。

第4回／原生林を感じる旅

2泊3日で雨飾山への遠征旅行、途中ブナの原生林にてソロ(単独野営)を行う。

第5回／冬の森、厳寒の旅

積雪2mを超える森にて、自分たちの設計で、自分たちの力で雪洞やかまくらを創り一晩過ごす。後半にはかんじきを履いて雪山のピークアタックを行った。

成果と課題

大人のありきたりの発想を遙かに超える子どもの創造力、それから、チャレンジにしても、どこまでもやり続け、限界という意識などないことに驚かされることになった。「生きる力」のないとされる子どもたちに、逆に指導者が教わる場面も多くあった。子どもたちの心は大きく揺れており、できる自分(たち)への自信、仲間と過ごすことの心地よさ、自然の怖さと奥深さを感覚的につかみ始めている。多くの保護者からも、活動後は子どもが主体的に考え、行動し始めたと評価いただいている。

課題としては、より多くの子どもたちを受け入れるための体制をつくること。冒険的活動や創造的活動はフィールド、天候、子どもたちの様子など状況の変化に応じて対応していかなければならない。そのため、状況把握能力のあるスタッフの確保、およびフィールドの開発がなかなかニーズに追いつかないのが現状である。



いかにくんだりいざ出陣

団体の概要

長野県・小谷の大自然を素材に、冒険的活動を使い「生きる力」を育もうという主旨でスタートした。現在、本プログラムと、子ども長期自然体験活動、サマーキャンプ、スプリングキャンプを行っている。

平成14年度子どものための自然・生活体験プログラム

実施団体名 特定非営利活動法人静岡県キャンプカウンセラー協会
連絡先 〒422-8056 静岡県静岡市津島町14-26
 TEL：054-283-5970 FAX：054-283-5970
 E-mail：npocaos@mac.com URL：http://homepage.mac.com/npocaos/

活動の概要

富士山の自然をテーマに、その大切さを考えていくキャンプ、12日間の生活を通してさまざまな活動をしながらか、「人付き合い」と「自分自身」について考えていくキャンプ、冬季の野外活動を体験する冬季キャンプの3つの活動を実施した。

活動の内容

(1)サマーキャンプ'02

～富士山のちから・みんなのちから～(6泊7日)

全日程テント泊あるいはビバーク、自作かまどによる自炊を基本として実施した。班単位の活動を中心に、日本の象徴である富士山の恵み(湧水・原生林など)を十分に堪能する活動を実施した。特に、大沢崩れハイキングでは、原生林でのビバーク体験の他、富士山に自生する木を育て、再び森に戻すための幼木の採取を実施した。



クロスカントリースキーツアー

(2)Back to the Nature'02

(11泊12日)

全日程テント泊あるいはビバーク、自作かまどによる自炊を基本として実施した。班単位の活動を中心に、個人が選択する活動も取り入れた。いろいろな活動を体験しながら多くの人と交流することを通して、自然・仲間・自分自身とのよりよい関係作りを目指した。

〈主なプログラム〉

①班別活動(1泊2日×2回)

各班のキャンプカウンセラーが独自に用意した活動。川遊び・酪農体験・地域研究・ビバーク体験・ハイキング・サイクリングなど。

②個人選択活動(1日×2回)

MTB・カヌー・沢登り・川下り・一日体験山ごもり・洞穴探検・つり・絵手紙・紙漉・日時計作り・火起こし機づくり・木工工作・ガラスリメイク・手作りパスタと炭焼きピザ。計15活動。

③盛夏の大沢崩れトレッキング

班単位で富士山大沢崩れ(1400メートル付近)まで、片道14kmの行程をバックパッキングで全員踏破した。原生林でのビバーク体験も実施。

④その他

高校生ミーティング・持ち寄りパーティー・料理博覧会など

(3)春の戸隠'03

「雪のキャンプ」(3泊4日)

「雪ととことん遊ぶ」をテーマに、クロスカントリースキーツアーと

雪上キャンプ体験を中心として実施した。希望者は各自雪洞を掘ってのソロビバークにも挑戦した。

成果と課題

すべての活動を通して不登校児童生徒を受け入れた。人との関係を作っていくことが苦手な子ども達にとって、多くの仲間と出会い、共に生活したことは、とても貴重な体験になったものと思う。多くの参加者にとって、仲間のありのままの姿や、自分のありのままの姿に気づき、受け入れることが出来る機会となったと考える。豊かな自然があってこそ出来る活動を通して、自然に対する子ども達の認識や関心を広げることが出来たと考える。

今後は、夏季・冬季にそれぞれ1事業ずつとして、より長期にわたる活動プログラムを検討していきたい。「人付き合い」を重視したキャンプをさらに追求していきたい。また、キャンプ場周辺の人材を生かし、より地域に根ざした活動を展開していくことも重要であると考える。

団体の概要

静岡県内の子ども達に、「自然・仲間・自分とのよりよい関係作りの場」を提供するために、キャンプ活動を中心に事業を実施している。夏季の長期キャンプ、冬季の雪上キャンプ、ハイキングやクラフトを行うデイキャンプ、1泊2日程度のキャンプやトレッキングなど、年間30日程度の主催事業の他、不登校児童・生徒のキャンプや、知的障害児のキャンプなどに、年間30日程度のスタッフ派遣を行っている。

学習障害 (LD) 児支援プログラムサマーキャンプ

実施団体名 財団法人名古屋キリスト教青年会
連絡先 〒460-0013 愛知県名古屋市中区上前津2-5-29
 E-mail : edukation@nagoya-ymca.or.jp

活動の概要

キャンプでの集団生活を通して社会生活を送る上でのコミュニケーション能力を高めるとともに、自然の素晴らしさや大切さを学んでもらうことを目的に、学び方の違う子どもたち（学習障害児とその周辺児）のためのサマーキャンプを実施した。

活動の内容

(1)子どものキャンプ

(2泊3日で実施)

- ①初めて出会った子どもたちがグループを作り、オリエンテーリングをしながらキャンプ場を探索。夜にはゲーム大会を実施して親交を深めた。
- ②昼間は川辺において、役割分担をしてお昼ご飯を作ったり、スイカ割り、川遊びをし、夜はキャンプファイヤーで仲間作り。
- ③最終日はクラフト作り、ポイントラリー、そば打ちから自分の好きなものを選び活動。

3日間通して、子ども2人に1人のリーダーが付いて24時間生活を共にした。

(参加者数23名)

(2)指導者養成

キャンプの事前研修として、LD児の理解、レク指導、安全管理法などについて専門家による講義や疑似体験を実施。

実際に2泊3日のキャンプでLD児と活動や生活を共にしながら、理論や知識を実践的な力へと変え



がんばって活動した仲間たち

た。
(参加者数13名)

また、キャンプ終了後は評価会を行い、より効果的な活動の展開やより有効な指導の在り方などについて協議した。

成果と課題

自己主張の強い子どもが多く、協調性に欠ける場面も見られたが、全員に役割を持たせることにより、共同生活に必要なことを体得できたものと思われる。

また、身のまわりの基本的なことが十分にできない子どもも多かったが、粘り強い指導によっていくつかの事柄については自分のできるようになった。

全体的には、与えられた役割をうまくできないお友達を手伝ってあげたり、遅れて歩いてくるお友

達を待ってあげたり、自分のこと以外にも目を向けるようになった。また、美しい自然に接して子どもたちの顔がいきいきしてきた。

このキャンプで体験して得たことを日常生活の中で何かに役立ててくれることを願っている。

団体の概要

1902年に創立され、キリスト教精神に基づき、精神、知性、身体の向上を図り、市民として国際人として優れた人格を築き、社会や隣人に奉仕できる人々を育成することを目的とした非営利の公益法人。国際協力、地域奉仕活動をはじめ、語学・幼児・野外・体育・社会教育の幅広い活動を展開し、青少年の全人的な成長と明るい未来を築くことに力を注いでいる。

森林キャンプ

実施団体名 財団法人福岡YMCA

連絡先 〒814-0133 福岡県福岡市城南区七隈1-1-10
TEL：092-831-1771 FAX：092-822-8701

E-mail：fukuoka@ymcajapan.org URL：http://www.ymcajapan.org/fukuoka/wellness/

活動の概要

平成3年に大分県日田郡中津江村を襲った台風により、約2万ヘクタールにわたる山林が被害を受け、今もなおその爪跡を残している。その村にある小学校跡地（現：環境教育センター）をキャンプベースに、大きく分けて「夏の下草刈り」と「春の植林」を大きな活動の柱に、村の人との交流や、森林にまつわる学習会など様々なプログラムを企画し、森林保全活動を実施した。

活動の内容

(1)森林キャンプ

（夏／平成14年8月2日～7日）

幼木の周りに生えた草を刈る「下草刈り」を中心とした活動。5泊6日という長期のキャンプ生活の中で森林活動や自炊、アウトティング（テント泊）、村の人との交流会を通して中津江村に住む人の生活と森林との関わりを知るプログ



地ごしらえ（整地）

ラム。

これらの体験の他、沢遊び、ヤマメのつかみどり、星空観察、砂金とりなどを実施した。

（参加者32名、キャンプスタッフ11名、外部指導者7名）

(2)森林キャンプ

（春／平成15年3月27日～30日）

台風の被害にあった風倒木の除去から、そこに新しい命を植える「植樹」を中心とした活動。3泊4日の日程で、これらの活動がどのように循環し自分たちのためになるのかなど、森林について体験的に学んだ。

これらの体験の他、ドラム缶風呂に入っの星空観察や中津江の子どもたちとともに、自分たちが考えた料理をつくる野外調理パーティーなどを実施した。

（参加者22名、キャンプスタッフ9名、外部指導者6名）

成果と課題

両活動を通じて、都市と農村の子どもたちの交流もでき、お互いの価値観を共有することができたものと考えている。

参加者の多くが福岡市在住の子どもたちであったが、福岡市の取水する筑後川の上流域のひとつが中津江村にあたるということにより、この活動が自分たちの生活にも密接に関わってくることを学ぶ機会にもなった。

参加する子どもたちが口をそろえて「また参加したい！」といってくれるのは、当プログラムに対する大きな評価であるが、広く、多



ヒノキの植樹

くの子どもたちに参加してもらうための仕掛け（都市から村への動線）が確立できていないことが今後の課題でもある。グリーンツーリズムや里山保全といったことが話題に上がる中、それをどう具現化して活動の充実を図っていくかということについて、今後研究していきたい。

団体の概要

福岡YMCAでは基督教の「愛と奉仕」の精神を柱に、青少年の健全な育成をめざし、サッカーやバスケットボールといったユーススポーツや野外活動クラブといった自然体験プログラム、学習障害児のためのプログラムなど、地域に根ざした活動を行っている。

英彦山「山伏(やんぶし)塾」

実施団体名 英彦山^{ひこさん}「山伏塾」実行委員会
連絡先 〒826-0043 福岡県田川市大字奈良1616
 TEL：0947-44-0383 FAX：0947-44-5274

活動の概要

神話と伝説と修験道の歴史を持つ英彦山(国定公園)で、点在する宿坊を借りて集団で生活することにより、日頃の自分たちの生活を見直すきっかけづくりの場を提供する。同時に、「ひと」、「もの」、「こと」とのふれあいの中で、自然についての理解を深め、社会性を養う機会とする。

この趣旨のもとに英彦山の豊富な自然や史跡・名所に直接ふれる自然体験や生活体験を基盤とした「生きる力」の育成を図る活動を実施した。

活動の内容

第1回：「友の輪をひろげよう！」

平成14年7月20日(土)

～22日(月)2泊3日

アイスブレイキング、坊の点検、屋内外の清掃の後、班毎に今後の計画について相談する時間を設けた。

第2回：「自分をためそう！」

平成14年7月27日(土)

～8月3日(土)7泊8日

初日に屋内外の清掃を行った後、今後のスケジュールや班毎のルールを相談した。

2日目からは、竹細工や地域探索などの班別活動、峰入りトレッキング、沢登り、焼き物づくりなどを実施した。また、坊の清掃や障子貼り、除草作業などの時間を設け、基本的な生活習慣を身につける契機とした。

最終日には、お別れパーティ

一の計画と反省会を実施した。

第3回：「見つめなおそう！」

平成14年10月12日(土)

～14日(月)2泊3日

初日に屋内外の清掃を実施し、2日目は第2回で作成した焼き物の野焼きを行った。

最終日には各坊の後片付けをし、近所に挨拶に出向いた後、班別に14日間の体験発表を行った。

- (1)場所 英彦山地区の宿坊(3軒)及び旧英彦山小学校と英彦山青年の家
- (2)参加者数 25名(小学4年生～中学生の男女)

成果と課題

子どもが日常生活にフィードバックできるような活動を取り入れることができ、問題解決能力や豊かな人間性、健康や体力づくりにつながり、「生きる力」を育むことができた。

また、豊富な自然や史跡・名所にふれる活動や体験を通して自然に対する畏敬の念を育てることができた。今後、滞在型の宿泊体験から移動型の宿泊体験へと取り組んでいきたい。また、広報手段の多様化や活動内容がマンネリ化しないよう工夫することが必要と考えている。



山伏塾参加者とスタッフ

団体の概要

英彦山「山伏塾」実行委員会は、地元の大学有識者、教育行政関係者、学校関係者、野外活動研究者、地元住民代表、地元ボランティア代表等9名で構成。福岡県下の小中学生を対象に、英彦山地区に点在する空家を利用し、親元を離れての長期宿泊体験を通じて子どもの「生きる力」を育む活動に取り組んでいる。

京の工芸染織に迫るハイテク研究体験

実施団体名 京都工芸繊維大学子ども染織体験実行委員会
連絡先 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町 京都工芸繊維大学工芸学部物質工学科内
 TEL：075-724-7562 FAX：075-724-7564

活動の概要

京都は、多くの伝統文化を受け継ぐ文化都市であると同時に最先端科学技術を生み出す都市でもある。その京都に育つ子どもたちに、伝統工芸のよさと最先端技術のすばらしさを「繊維」と「染色」を題材に体験させることを活動目的とする。後世へ守り伝えるべき技術と私たちの生活をますます豊かにする科学技術の2つの側面からの「ものづくり」体験を通して、子どもたちの豊かな感性や創造性を育成する取組である。

活動の内容

中学・高校生を対象に、科学実験の内容を含め、次のようなプログラムを2日間の日程で提供した。

(1) 繊維と染色の歴史と最新技術についての講義



天然藍染めの作業風景

(2) 天然藍染めの実習

天然藍染めの原材料である植物を見せ、天然染料である「すくも」がどのように作られるかを解説した後、伝統技法である発酵法による染色を実習させた。布に模様をつける方法として、これも伝統技法である種々の絞り染めを取り上げ、各自に工夫させながら独自の模様を作る。

(3) 染料の有機合成化学実験

実験についての簡単な講義と注意の後、2人1組になり、分散染料、酸性染料、インジゴの各染料を合成し、得られた染料で、各種の繊維を染色して染色性の違いを観察する。

(4) ハイテクインクジェット染色の実習

コンピューター上で自由にデザインした図柄を、インクジェット染色法(デジタルカメラやスキャナーで取り込んだ画像、自分自身でデザインした図案をコンピューター上で加工し、それをインクジェットで染色する)で布上に描き染色する最先端染色技術を体験する。

(5) ハイテク繊維の電子顕微鏡による観察

最先端の繊維製造技術で作られた新合繊と天然繊維の形態を、走査型電子顕微鏡を子どもたちに直接操作させて観察する。

小学生には、保護者と一緒に、天然藍染めとインクジェット染色を体験してもらう。



走査型電子顕微鏡観察

成果と課題

染料の有機合成化学実験は、ほぼ全員にとって初めての化学実験である。分子を化学で操ることができ、分子の形を変えることができることを、ビーカーの中で試薬の色が変化することで体験させることができた。中学生には難しいところもあったが、指導者の補助により全員が成功し、満足感をもたせることができた。自分達で作った染料で各種繊維を染めることにより、染料、繊維の違いによる染色性の違いに興味を深めた。

子どもたちに「ものづくり」の興味を持ち続けてもらうためには、このような体験学習が動機づけとなり、日常的に取り組めるような「ものづくり」の機会を作ることが重要である。

団体の概要

「京の工芸染織に迫るハイテク研究体験」を実施するために、平成11年に京都工芸繊維大学の教職員が構成メンバーとなり、子どもたちに「ものづくり」のおもしろさを、「繊維」と「染色」という立場から伝えたいと考え活動している。

科学・ものづくり体験活動

実施団体名 楽しい科学をつくる会
連絡先 〒693-0001 島根県出雲市今市町1900-2 出雲科学館内
 TEL：0853-25-1500 FAX：0853-24-8383

活動の概要

科学技術や自然・環境に対する興味・関心を高めることを目的に、実験・ものづくりに関するイベントや、自然・環境に接する自然観察会を通して、その楽しさを体感する活動を行った。

活動の内容

(1) みんなで体験しようロボットの世界 (8/13~8/16)

①ロボトークの展示及び体験

話しかけるとまばたきしたり、首・手を動かすロボット「セディア」の展示・実演を行った。
 (参加人数約300名)

②ロボット展示・実演及び操作体験Ⅰ

松江高専の協力を得て、飛行船の実演、サッカーロボット及び輪投げロボットの实演・操作体験を行った。
 (参加人数約150名)

③ロボット展示・実演及び操作体験Ⅱ

全国高等学校ロボット競技大会に出場した出雲工業高校の協力を得て、ロボットの实演と操作体験を行った。また、高校生が製作したユニークな装置類の展示・実演を行った。
 (参加人数約200名)

④ロボット工作教室・競技会Ⅰ

ロボットキットを改造し、テニスボールを使用してサッカーの得点を競う競技を行った。
 (参加人数18名)

テニスボールを使用してサッカーの得点を競う競技を行った。

(参加人数11名)

⑤ロボット工作教室・競技会Ⅱ

ロボットキットの製作とピンポン球を得点エリアに入れる競技を行った。(参加人数17名)

(2) 風をつかめ！ペーパーグライダー飛行教室 (12/13)

ホワイトウィングス「スカイカブⅢ」を教材に、ペーパーグライダーの製作と滞空時間を競う飛行コンテストを行った。また、様々な模型飛行機の飛行実演を行った。(参加人数142名)

(3) 宍道湖の水生生物と環境を学ぼう (10/26)

宍道湖を代表するヤマトシジミの生態と環境について学習を行った。また、宍道湖の秋を代表する魚「ハゼ」釣りを中心に体験活動や湖岸清掃も行った。
 (参加人数16名)

(4) 三瓶山の自然と星空を観察しよう (10/19~10/20)

1日目

コミュニケーションゲーム
 三瓶自然館での自然学習
 自然観察会

天体観察会およびプラネタリウム

2日目

三瓶山登山
 (参加人数11名)

成果と課題

様々な活動を実施することができ、創作活動を通して科学技術への理解を深めたり、自然体験を通して自然環境に対する意識を高めたりすることができた。

特に創作では、製作物で競技を行うことにより、創意工夫がより深まるとともに、次への意欲が高まると感じた。

今後は指導者養成にも力を入れ、活動の充実を図っていきたい。



自分で作ったペーパーグライダーを飛ばす子どもたち

団体の概要

楽しい科学をつくる会は、子どもから大人までたくさんの方が、科学やものづくりのおもしろさや不思議さを体感できる場を提供することを目的に、現職の教員を中心に平成13年10月に設立した。

おもしろ科学クラブ

実施団体名 おもしろ科学クラブ
連絡先 〒744-0043 山口県下松市東陽6丁目1-3（旺文社LL下松校内）
 TEL：0833-46-3621 FAX：0833-46-3623
 周南市 勝間ふれあいセンター TEL：0833-92-0043 FAX：0833-92-0044

活動の概要

個性を生かした独創的な工業製品が要求される時代になっているが、子どもたちの現状はナイフひとつ使いこなせない状態で、工業力の将来に影を落としている。

そこで、子どもたちに科学遊び、科学工作、実験を通して物づくり技術の習得と、科学に対する興味・関心を醸成する活動を実施した。

活動の内容

子どもたちは、飽きやすく好奇心が旺盛で喜びや感動に敏感だが、現状では科学に興味の無い白紙状態なので、特定の分野に限定せず多種分野の物づくりや実験を体験させることを中心に実施した。

一般的な工具は自分持ちとし、愛着を持って使いこなし、家庭のエンジニアとしての自覚を持たせる。使用する材料は、市販の製作

キットは使わず、素材を加工して作品を作ることを原則にし、いろいろな工作機械を使って仕事体験をさせる。

1回の材料費負担は上限1,000円を目標とし、自分で作った喜びや満足感が得られるよう、完成作品を当日に持ち帰ることができるようなプログラムで実施した。

◎プログラム内容（10回実施）

- 5月 古代の科学
ヘロンの噴水に挑戦
- 6月 目の科学
残像実験機の製作
- 7月 光の科学
ミラクル反射標識製作
- 8月 力の科学
ホバークラフト製作
- 9月 飛行機の科学
バルサ飛行機製作
- 10月 ロボット1
4脚歩行ロボット製作①
- 11月 ロボット2
4脚歩行ロボット製作②



自分で作ったバルサ飛行機を飛ばそう

- 12月 セラミックオカリナ製作
ジュニアロボット大会
- 1月 セラミックオカリナの焼成
- 2月 電気の科学
回転機の実験と製作

成果と課題

長期にわたる民間団体主宰の科学活動が地域の話題となり、参加する子どもたちの励みになっている。

材料費負担額を1,000円以内に抑える目標で取組んでいるので、取組める内容に限られ、重複しないようにテーマ設定することに苦慮している。

また、地方での工作材料の入手が困難であり、活動の充実に苦慮している。



バルサ飛行機製作の様子

団体の概要

おもしろ科学クラブは、身近にある製品や器物を使って化学や物理の実験を、科学工作は製作キットを使わず素材を自分たちで加工して製作する。

この体験を通して科学が身近にあることに気付き、工作機械や道具を使いこなして作品を完成させる喜びを体験させる、体験型科学教室などを行っている。

「ライフサイエンス教育指導者のための支援プログラム開発」

実施団体名 お茶の水女子大学理学部生物学科ライフサイエンス教育委員会
連絡先 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 お茶の水女子大学理学部生物学科内
 TEL：03-5978-5579 FAX：03-5978-5579
 E-mail：mhatta@cc.ocha.ac.jp

活動の概要

子どもたちの生命科学分野への興味を育むためには、先端的な生命科学研究について、おもしろく、わかりやすく中学生や高校生に指導できる指導者を養成することが必要である。そこで、生涯学習の講師や中学・高校の教員等を対象に、遺伝子組換えや分子生物学分野の実験を盛り込みながらも、理科室にある実験器具で再現できる内容のプログラムを開発し、指導者養成の実習を行った。

活動の内容

(1) ライフサイエンス教育・実習支援プログラムフォーラム

子どもたちが何に興味を持っているのか、さらに子どもたちに指導する際にどのような問題があるのかについて協議した。

(2) 3種類のテーマの実習（3日間の連続集中コース）

①「ヒドラの再生と細胞分化」

摂食行動の観察、再生実験、さらに、丸ごとのヒドラを細胞1個ずつにまで解離して顕微鏡で観察し、細胞の種類の見分け



フォーラムで意見交換—貴重な意見収集ができた



電気泳動によるタンパクの分析—細かい作業に緊張する

と機能との連関や、無性生殖と体軸の勾配に関する解説を行った。

②「組換えDNA実験の基礎」

大腸菌に外来DNAを組換え導入する技術をそのまま体験できるように、大腸菌の環状DNAを取り出したり導入する実験や、DNAを切断して電気泳動での解析を行った。そして導入されたDNAによって大腸菌の性質が変化することから、遺伝子から生物機能へのつながりを解説した。

③「葉緑体の生化学」

ホウレンソウなどから葉緑体を単離し、含まれるタンパク質の分析を電気泳動によって、色素の分析を薄層クロマトグラフィーによって行った。分析方法の解説や植物の種類による色素の比較実験を行った。

さらに、参加者と講師によるフォーラムを開催し、教育指導の現場での問題点などについて意見交換と情報集約を行った。

成果と課題

先端研究を理解するのに役立つ実験と指導現場ですぐに使えるものとの組み合わせたこと、きめ細かな実験指導ができたことに、良い評価をいただいた。実習終了時に行なったアンケートでも内容に対する満足度は高く、教育指導者のレベルアップに貢献することができた。今後への期待も大きく、毎年の定例的開催や週末連続コースの開催を望む声が多く寄せられた。しかし、このような高度な内容を含む密度の高い実習を提供するには講師陣の準備の負担が大きく、体制整備に課題が残された。

団体の概要

子どもたちの理科離れが問題視されるようになる一方で、高度な生命科学技術が生活の中に浸透する時代となり、ライフサイエンス分野の教育指導者育成が重要であるとの認識から、お茶の水女子大学理学部生物学科の教官有志を中心に高校生物教員等と共に、先端研究と子どもの教育をつなぐ指導者の育成方法を模索し活動している。

土曜あそぼう会わくわくプレーパーク体験

実施団体名 戸山公園子どもの遊びを考える会
連絡先 東京都新宿区
 TEL：070-5210-0489

活動の概要

協調性や思いやりの心を育むことを目的に、子どもたちに都会の限られた自然の中で、火、水、木、土などに触れながら遊びの輪を広げ、冒険的な遊びを通じて自らのエネルギーを解放させる術を体験させるとともに、幼児、小学生、中高生、社会人が遊びを通じて触れ合う機会を提供する活動を実施した。

活動の内容

毎週公園を使って遊ぶことの可能性を広げるために、幼児から大人まで多くの人々が楽しめる内容、子どものやりたい気持ちを自然に引き出せる内容の特別プログラムを企画し、月1回実施した。

①大型絵本がやってくる

若者グループが手作りの壁面状布絵本を使い、子どもを巻き込んでの自由な展開で物語創作体験を行った。

②モビール工作

薄い木片を型で抜き、色をつけて糸で竹ひごに結びつけるなど、手先を使う作業による楽しい作品作りを行った。

③けんだま指南

けん玉名人を手本に、初心者には持ち方から、経験者はより高度な技の習得を目標にして遊んだ。

④しゅろの葉工作

しゅろの葉を素材に、一見本物にも見える大小様々なバツタを子どもと大人が一緒になって作った。

⑤バームクーヘン作り

生地作り、生地を竹棒に塗りつける作業、焚き火にかざしながら焼く作業と、どれも大勢で協力し合いながら2時間かけて作った。

⑥縁台作り

廃材を使って、みんなが憩える縁台を作った。材木を切る作

業は大人が、釘打ち・ペンキ塗りは子ども中心で行った。

⑦簡単工作

フェルトのブローチ、牛乳パックを利用した動物けん玉や箱など、身近な材料でできる作品を楽しみながら作った。

⑧クリスマスオーナメント作り

ビーズやリボン、広告チラシ、胡桃の殻など様々な材料で思い思いの飾りを作り、公園の木にかけて飾った。

⑨草木染め

コーヒー・紅茶・みかんの皮・公園の枯葉を使って、さらし布を染めた。

⑩ミニ陶芸

粘土で茶碗・箸置きなどの小物を作成。一週間乾燥の後、簡易かまどで焼き、素焼きの素朴な作品が完成した。

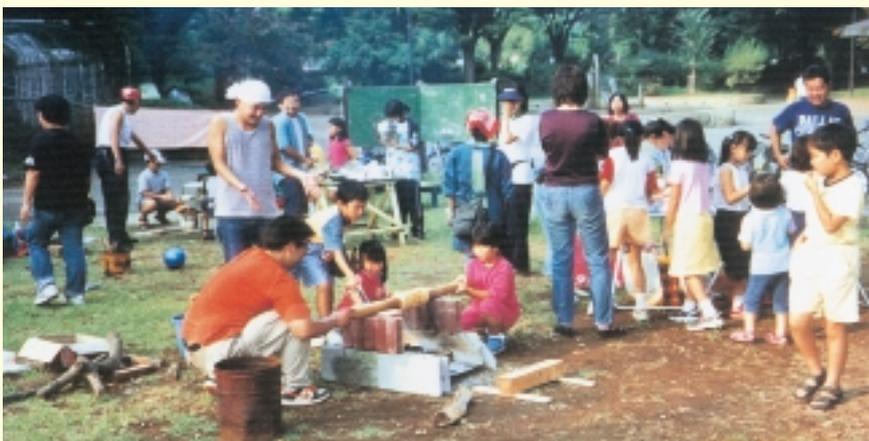
⑪ベイゴマ指南

名人登場と白熱した戦いに誰もが興味をかきたてられ、多くの子どもがベイゴマに初挑戦した。

成果と課題

今回の企画をきっかけに、当会の参加者は確実に増え、活動が地域に浸透してきた。

今後、子どもたちが自発的に遊びを創り出し、あそぼう会が子どもたちの居場所・地域の人々の井戸端的な場所となるよう、多くの人々の自主的な関わりを引き出していきたい。



公園でバームクーヘンを焼くーみんな早く食べたいー一心で作業をする

団体の概要

当団体は、都会の公園が子どもにとって遊びにくくなっている現状をなんとか変えようと、地域住民が中心となって「遊び場作り」「花壇整備」「プレーパーク学習会」等の活動を行っている。活動の中心である「あそぼう会」は、毎週2回水曜日と土曜日、春・夏休み中にも数日間開催し、冒険遊び場的な遊びを取入れている。

夏休み子どもシネマスクール

実施団体名 特定非営利活動法人日本映画映像文化振興センター
連絡先 〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-45-5 新宿永谷ビル605号
 TEL：03-3200-2118 FAX：03-3200-9085
 E-mail：mcac@mbh.nifty.com URL：http://www.eibunsin.com

活動の概要

日本映画最盛期を支えた映画スタッフたちに映画制作のセオリーを学びながら、映画(映像)への興味・関心を醸成するとともに、異年齢の子どもたちが力を合わせて一つの作品を仕上げることにより、自立性・協調性・集中力・創造性を養うことをねらいに、映画制作の基本を体験する活動を行った。



完成試写会で記念撮影—すっかりうちとけた仲間たち

活動の内容

東京都西東京市にて、小学校4～6年生12名が、ビデオカメラを使って映画の演技、演出、撮影、編集、完成試写までの映画制作の基本を体験した。

平成14年7月25日から8月23日まで、次のような活動を行った。

7月25日

午前：開校式、参加者全員で「マタギ」(16ミリ)を鑑賞

午後：子どもたちの自己紹介の後、演技の話と演技指導に関

する授業

7月27日

発声練習の後、シナリオを配付し、本読みの練習

8月5日

演技の参考にするために「こむぎいろの天使」のビデオを鑑賞し、その後本読みの練習

8月8日～12日

撮影期間：参加者がそれぞれの役割を実際に演技しながら、周囲で働く大人から映画制作の

ノウハウを学習

8月19日

アフレコと編集の体験：パソコン画面でのオーバーラップやワイプなどの実習

8月23日

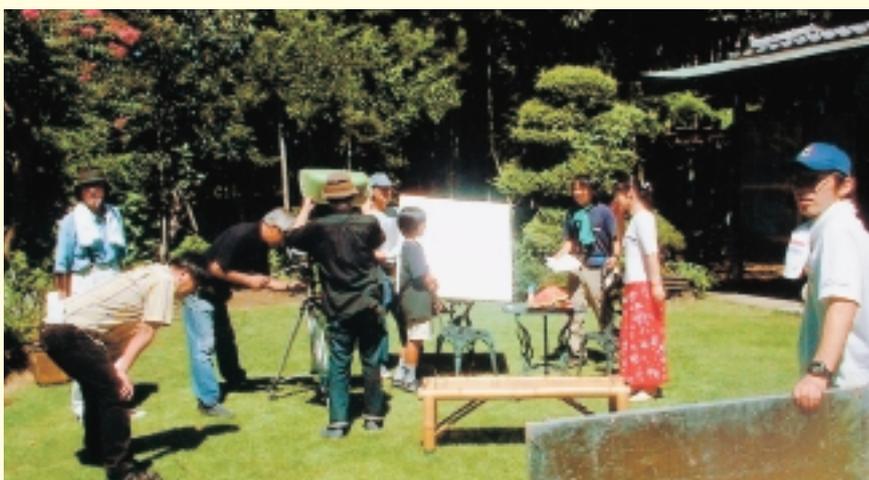
完成披露試写会：自分たちが制作した映画を、家族や見学者、取材陣と一緒に鑑賞し、意見交換

成果と課題

子どもたちに本当の映画制作の基本を伝えたいと願っていたところ、趣旨に共鳴したベテランスタッフたちの協力が得られ、本格的技術、演出、演技指導が行われたことは大きな収穫だった。

初日の子どもたちの頼りない顔、完成試写会での自信と喜びに輝いた顔、こんなにも変わるものかと成果の大きさに驚いたのは、家族をはじめ携わった大人たちだった。

準備期間が短く(6月初旬からだ)、日程も思うように取れなかったため、今後は十分に時間をかけて準備を整え実施したい。



実際に撮影を体験

団体の概要

当センターは映画・映像文化振興のため、映画人と映画ファンとで立ち上げたNPO法人である。代表作を上映後、監督をはじめゲストに話を聞く「監名会」は、法人設立以前から年4回20年以上続いている。また、昨年からは映画の作り方を子どもたちに伝えたいと、「子どもシネマスクール」を始める。

感謝の心を育む 郡上子ども通学キャンプ

実施団体名 特定非営利活動法人メタセコイアの森の仲間たち
連絡先 〒501-4235 岐阜県郡上郡八幡町島757
 TEL : 0575-65-3756 FAX : 0575-65-3818
 URL : <http://metamori.npo.gr.jp/>

活動の概要

地域の文化を伝え、冒険的な自然体験活動を通じて生きる力を育むため、小中学生を対象に、昼間は各学校に通い、宿泊はキャンプ場で異年齢の子どもと生活する活動を実施した。食事、洗濯、掃除も子どもたちで行い、地域のお年寄りや技術者を講師として招き、自然体験活動を行った。

活動の内容

①初日(日曜日)

地元の釣りインストラクターの指導で、「チチコ捕り大会」を行った。(チチコとは郡上での呼び名で、正式和名はカワヨシノボリ。ハゼ科の魚の一種)。夜はクイズ形式により郡上の魚のお話を聞いた。

②2～6日目(月～金曜日)

毎朝5時30分に起床、朝食の後は郡上八幡自然園キャンプ場から各学校へ通った。通学方法も鉄道、路線バス、スクールバスなど様々。スクールバスは、大和町教育委員会の協力により路線変更を行い、町境を越えて郡上八幡自然園キャンプ場まで乗り入れた。



上級生や下級生と勉強をする子どもたち



長良川で魚捕りをする子どもたち

午後3時を過ぎると学校生活を終えて子どもたちが帰ってくる。子どもたちは早速、掃除や宿題にとりかかる。そして、夜は毎日体験学習の時間。

2日目の夜は、地元の方から郡上に伝わる昔話を、4日目の夜は地元農家の方からワラを編み縄に仕上げる「わらない」を教えていただき、5日目の夜は林業家の方から郡上の山や林業のお話を聞いた。3日目と6日目の夜はイカダ作りを行った。

③最終日(土曜日)

日頃の感謝の気持ちをこめてお父さんやお母さんに食べてもらう昼ご飯を朝早くから作った。そして毎日少しずつ作り上げたイカダを長良川に浮かべて披露した。一週間ぶりに会う父母と一緒に昼ご飯を食べ、一週間続いた通学キャンプが終了した。

成果と課題

この事業では、家庭から一時的に子どもたちを引き離し、NPOが中心となり地域の方々と共に様々な体験活動の機会を子どもたちに「意図的」・「計画的」に提供した。楽しかったと答えた参加者が88%、つらいことがあったと答えた参加者が38%であった。今回の事業は楽しみだけを求めたものではないし、この事業で子どもたちの道徳観や正義感がすぐさま変わるものでもない。この体験がどのように生かされるかは、各家庭、学校、そして地域の方々の今後のかかり方によるものと考えられる。

団体の概要

2000年7月、特定非営利活動法人として法人化。東海地方を中心に年間約2万人、80校の小中高等学校に自然体験や環境教育プログラムを提供している。

おおやまだ農業小学校

実施団体名 おおやまだ農業小学校を育てる会
連絡先 〒518-1422 三重県阿山郡大山田村平田103 社団法人大山田農林業公社内
 TEL：0595-47-0151 FAX：0595-47-0244
 E-mail：noringyo@vill.oyamada.mie.jp

活動の概要

土に親しみ作物の成長に喜びを感じ自然や生き物の生命力の素晴らしさを知る。また、争うことなく、何にでも好奇心を持って挑戦するアドベンチャー精神で心と体の創造を目指し、地域内の遊休施設や転作田を使い、農業作業体験を中心に、周辺の野山を散策しコウゾの木を採取しての紙漉き、陶芸体験を行い、地域の自然や文化に親しむ活動を実施した。

さらに、夏季キャンプやカヌー体験など仲間作りを醸成する活動も行った。

活動の内容

地域周辺の市町村をはじめ近隣の小学生を中心とした親子の参加により4月から12月まで月2回の自然体験活動を行った。

1回の活動では、半日をそれぞれに割り当てられた畑でジャガイモ、トマト、大根、ニンジンなど様々な野菜作りを行い（水稲は共



サマーキャンプでの沢遊び

同の圃場で行います)、後の半日を体験活動に当てた。

今回の体験活動では「紙漉きに挑戦する」ということで、野山での素材採取から道具作り、紙漉きまでの一連の作業を体験した。

体験活動は季節に応じて次のプログラムを提供した。

- 4月 看板作り、野山の散策
- 5月 うどん作り、古代米田植
- 6月 紙漉き器製作、蛍狩り、カヌー・ボート体験
- 7月 パン・ジャム作り
- 8月 サマーキャンプ
(川遊び、かかし作り、

きもだめし、星座観察)

- 9月 古代米稲刈り・脱穀
- 10月 陶芸、
野山散策（コウゾ採取）
- 11月 紙漉き
- 12月 収穫まつり、文集作成

成果と課題

打ち解け合った友達とカエルや虫を追う子や、チャンバラごっこ、木登りをする子など自然の中で自分達が考え出した自由な遊びをする姿が見られるようになり、仲間の輪の広がりとともに、年齢を超えてかばい合う様子がうかがえるようになった。

こうした活動により自立と協調性が育成されると共に植物、水、土に親しむことでテレビやゲームでは味わえない自然の中での活動の素晴らしさを学び、自然環境や自然愛護への意識や態度が育成されたものと考えている。

今後はスタッフの充実と、活動フィールドの開発、同じ活動を行う団体とのネットワーク作りなどの整備が課題となっている。



土ほぐしの仕上げは手が一番ヨ!

団体の概要

大山田村は三重県の西端、伊賀盆地に位置し、良質な木材と伊賀米、伊賀牛を産出する緑豊かな農山村である。この豊かな自然を活用し、「農に学び自然を愛し生きる喜びを感性と体験によって学ぶ」をテーマに、農家の有志が指導者となって農業作業体験をはじめ様々な体験活動を通じ、子ども達の育成に力を注いでいる。

佐田岬自然環境美化推進活動〈海は恋人〉

実施団体名 佐田岬ボランティアの集い
連絡先 〒796-0892 愛媛県西宇和郡三崎町692番地
 TEL：0894-54-1111（内線：150） FAX：0894-54-1988

活動の概要

三方に海が開ける三崎町は、山・海の恵みが多い半農半漁の町であるが、近年、生活様式の変化により山・海の生態系が変わり、豊かな資源にかげりが見受けられる。特に海の汚れが見られることから、生活廃水の浄化について考え、〈海は恋人〉の一環として、大人に無い子どもの感性を活かした環境美化運動に取り組み、山・海の偉大さ、自然の大切さを学ぶ一方、社会奉仕活動による協調性を養う活動を実施した。

活動の内容

日常生活の不要物である「お米のとぎ汁」とEM菌を使い、家庭排水の浄化推進をグループ活動として展開した。

チラシ等の町内配付により参加希望者を募り、町内4地区別に運動を展開した。

第1回目の活動は平成14年7月20日（土）の「海の日」とし、これからの活動への動機付けとい



海の清掃も合わせて実施した海岸調査

う意味合いも含め、地元の方を講師に招いて沿岸生物の話聞き、海岸の清掃活動を実施した。

その後、3月までの間に各地区毎に第2回・第3回とEM菌の散布及び海岸清掃という内容で活動を展開した。その合間には、「半島ウォッチング」と銘打って植物観察やバードウォッチングなどの自然観察会を3回実施し、自然の大切さを実感してもらうとともに、自分たちが行っているEM菌散布や海岸清掃が自然の保護に役立つ

ことに気付かせ、より積極的に活動に参画する気持ちを持たせるような工夫もした。

EM菌散布の前にはEM発酵液づくり講習会も実施し、最終活動としては海辺の環境調査も実施した。

成果と課題

2年間の活動によって、サポーター役の大切さと大変さを味わうことができた。

参加した子どもたちからは、不要物も使い方によって不要物でなくなることを学び、便利さから生じる環境破壊を知ることができたという内容の報告が多かった。

また、一般の住民からも発酵液の作り方を求める声があり、広がりを感じた。

今後の課題は、周年活動をなくしては効果が上がらないことから、EM菌購入の経費負担が大きな問題となるが、町も助成の意向を示し、継続の確かさを確認している。



真剣な眼差しで、講師の指導を受ける児童生徒—EM菌とお米のとぎ汁を使った発酵液づくり

団体の概要

町内で唯一のボランティアグループであり、環境美化活動部会、健康福祉部会、イベント助成部会に分かれて活動している。3年前に河川里親制度に縁組し、三崎大川の環境美化推進に参画し汗をかいている。集い人は、高校生を含めて50人。

みきっ子くらぶ

実施団体名 みきっ子くらぶ

連絡先 〒922-0854 石川県加賀市三木町2-98 加賀市立三木小学校内

活動の概要

子どもたちが本に馴染める場として、本の読み聞かせの会を開催した。本に親しむきっかけをつくり、読書への興味や意欲を育み、本を読む楽しさを知ってもらう。

また、家族とのふれあいの一つとして、家庭での読み聞かせを奨励し、心豊かな子どもたちの育成の一端を担えればと考え活動した。

活動の内容

(1)平成14年4月～平成15年3月

子どもを対象にほぼ月2回、水曜日の午後と土曜日の午前に、小学校と地区会館にて「みきっ子くらぶ よみきかせ会」を開催した。主に、地域の保育園児・小学生を対象に、小学校、保育園を通して参加者を募集し、毎回20～30名の子どもたちが集まった。

内容は、地域の有志の方や保護者の方に、その季節に合った本や紙芝居、地元縁のあるお話をしてもらった。時間は30分から1時間だが、子どもたちは飽きずに聞き入っていた。



加賀市にまつわる手作り紙芝居をしている町の有志の方



絵本の読み聞かせをきいている子どもたち

また、簡単ではあるが新しい本の紹介や、その時々テーマに沿った本の展示も行った。

(2)平成15年2月と3月

主に大人を対象とした読み聞かせの会を実施した。

内容は、隣接地区在住の有名な童話絵本作家を講師に招き、読み聞かせの良さや大切さを保護者の方に知ってもらうために、実際に読み聞かせをしてもらった。

また、作り手としてのお話も交え、参加者と講師との和やかな質疑応答を行った。

成果と課題

小さな子どもから小学校高学年まで幅広い年齢の子どもたちが来てくれたので、やさしいお話から歴史に関係するお話まで、幅広い内容のお話ができただけでなく、

確実に回を重ねることで、子ど

もたちが本に親しむ機会が増えているのは間違いない。

また、いろいろな本に出会える場であり、お話を聞いて想像したり、何かを感じたりできる場として役立っていることと思う。

今後も地道に読み聞かせを中心に活動し、読み手の技術の向上も含め、少しでも多くの子どもたちが参加しやすいように場所を変えてみたり、歌や音楽を取り入れてみたりしたいと考えている。そして、大人のための読み聞かせの講演会も継続し、家庭での読み聞かせの重要性を今後も提唱しながら、地域の子どもの豊かな心の育成に尽力したいと考えている。

団体の概要

平成12年4月に三木小学校母親委員が中心となって発足し、主に読み聞かせを行っている。平成13年より、地域のお年寄りを講師に、昔話や昔の遊びの会なども開催している。また、平成14年からは講師を招いての読み聞かせの講演会も行っている。現在、構成員7名が地域の皆さんに支えられ、小学校や地区会館等で活動している。

親子ふれあいお話し会

実施団体名 お話サークルママのポッケ
連絡先 〒521-0231 滋賀県坂田郡山東町村居田865
 TEL：0749-55-0851

活動の概要

親子で本に親しむことは、子どもが本に接する原点であると考え、図書館や公民館等において親子ふれあいお話し会を実施した。

活動の内容

月ごとにプログラムを作り、月に2～3回お話し会を開いた。町立図書館においては、第1・第3日曜日に、地域の公民館や集会所では適宜開催した。

【各月のお話し会のテーマ：日本古来の行事、伝統、あそび等季節感あふれるものを選択】

4月：さくら 5月：お節句
 6月：ほたる 7月：七夕
 8月：うみ 9月：お月さま
 10月：どんぐり 11月：おちば
 12月：クリスマス 1月：お正月
 2月：おに 3月：ひなまつり

〈活動例〉

【7月親子ふれあいお話し会】

①エプロンシアター「どうぶつ村のひろば」



パネルシアター



まき紙とペーパサート

- ②読み聞かせ「たからさがし」
- ③紙芝居「おまんじゅうのすきなとのさま」
- ④影絵「七夕さま」
- ⑤親子手作り「さかさざりを作ろう」
- ⑥本の紹介

【2月親子ふれあいお話し会】

- ①豆まき「鬼は外福は内」
- ②読み聞かせ「おにとりいりまめ」
- ③絵を読む「もこもこもこ」
- ④昔がたり「おんぼ石」
- ⑤親子手づくり「鬼の兜を作ろう」
- ⑥本の紹介

お話し会では、会場の壁面にテーマに合わせた飾り付けを行った。

また、ママのポッケの手作りを毎回1作品以上演じ、手作りの暖かさを演出した。

さらに、各月のテーマに関する本を紹介するとともに、図書館との連携でテーマコーナーを設け、関係する図書を展示した。

成果と課題

第1・第3日曜日のお話し会は定着し、毎回20組から30組の親子が参加した。親同士、子ども同士のつながりも出てきた。

また、お話し会后、本を借りて帰る親子が増えた。

親子が共にお話の世界に浸り共感する体験を積み重ね、家庭に本の世界、読書が広がっていくことを期待し、プログラムの中に、参加者による読み聞かせを入れることも考えていきたい。

団体の概要

子ども大好き、お話大好きなママ(30代～60代、現在17名)がお話サークルママのポッケを結成して6年。常時二つの活動を実施している。一つはお話の制作活動である。地域に伝わる昔話を紙芝居、絵本、影絵等に行ったり、既存の名作も子どもの興味に合わせて人形劇やペーパサートにする等、手作りの楽しさを味わっている。二つ目は、幼児の親子や児童を対象としたお話し会を定期的に行き、共にお話の世界に浸り共感することで、読書への興味・関心を高めている。要請を受けて保育園、幼稚園、小学校、お年寄りの集まりにも出かけている。

おはなしボランティア養成事業

実施団体名 河内町立図書館ボランティア かりん
連絡先 〒329-1104 栃木県河内郡河内町下岡本3773-12
 TEL：028-673-7325 FAX：028-673-7325

活動の概要

子どもたちに読書の楽しみを伝えるために、本と子どもを結ぶボランティアの養成講座を実施した。そして、子をもつ親や地域の大人たちが、子どもたちへの絵本の読み聞かせの大切さと、その手法について実技を交えながら学んだ。また、親子で参加できるようにと夏休みに実施した科学読み物と自然観察の講座では、町内外の子どもたちが本を調べながら身近な自然や科学を楽しみながら学んだ。



手づくりの人形の表情の豊かなこと・・・

活動の内容

ボランティアとして実践・活動するために必要な、ストーリーテリングやブックトーク、絵本の読み聞かせ方法など、その手法について講座生たちが実技を交えながら学んだ。

- (1) 科学読み物と自然観察を通して、子どもたちに身近な自然や科学への興味・関心を持たせる手法について、3回に分けて講座を開催。親子一緒に学んだ。
- (2) 『お話とあそぼう』ストーリーテリングの実践者から、その手法を学んだ。

- (3) 『ウルトラパパの絵本と子育て』絵本作家を講師に迎え、父親と子どもの子育てを通して、絵本とのかかわりについて話を聞いた。
- (4) 『本と子どもと絵本製作の現場から』自宅で文庫を開くなど、子どもの読書活動に取り組んでいる絵本作家から、子どもの成長に果たす読書の役割について学んだ。
- (5) 『ブックトーク』参加者が実習を通してブックトークの方法を身につけるために、入門編から実習編と3回に分けて実施、実技・方法を学んだ。

こともあり、キャンセル待ちが出るほどの人気だった。町内の自然林を親子一緒に観察しながら科学読み物の本を再読することにより、「興味・関心が高まった」、「楽しく学べた」、「次回も是非実施して欲しい」との声が多かった。



「メダカの学校」の本も書いた尾田先生のお話し、楽しくお勉強できましたね



自作の絵本を読みながら・・・

成果と課題

子どもたちの「理科離れ」が指摘されている昨今、読書活動を通して自然や科学への興味・関心を高めることに留意して実施した3回の講座は、初めての企画という

団体の概要

絵本の読み聞かせやブックトークの実践を通して、子どもたちにもっと本を身近なものに、その楽しさを知ってもらいたいとの思いで平成9年に発足した「河内町立図書館ボランティア かりん」は、子どもと本の橋渡し役として、町内全小学校6校、町立保育園、町立図書館などを拠点にして、「絵本の読み聞かせ会・お話し会」を実施している。

「子ども読書の日」制定記念イベント

実施団体名 社団法人 日本書籍出版協会
連絡先 〒162-0828 東京都新宿区袋町6
 TEL : 03-3268-1303 FAX : 03-3268-1196
 URL : <http://www.jbpa.or.jp>

活動の概要

平成14年4月18日から21日にかけて開催された、東京国際ブックフェア2002の会場（東京ビッグサイト）において、平成13年12月に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」（以下「法律」という）の理念にそって、その実体化のための活動を行った。

活動の内容

(1)「子ども読書の日」制定記念セミナー（4月21日開催）

『子どもの読書活動推進法』実体化のために」をテーマにセミナーを開催した。パネリストは、教育行政機関、読書活動推進団体からの参加を得て、草の根からの読書推進活動の重要性や、「子どもの読書活動推進法」の実体化促進について各々の立場から報告、ディスカッションを行った。

(2)「子ども読書の日」制定記念ブース

①来場者約5万人に対し、「法律」の理解を深め、子どもの読書環境づくりや、全国で行われている「子どもの読書推進運動」、「地方交付税措置の学校図書館図書整備費」が各自治体で確実に予算化されるか等、読書推進に役立つノウハウを収録した冊子『子どもの読書活動推進法』実体化のためのマニュアル』を2万部配布した。

②地域の保健センターで行われる0歳児健診の機会にすべての赤ちゃんと保護者にメッセージを伝えながら絵本を手渡す運動や、学校で授業が始まる前の10分間、



子ども読書の日制定記念ブースでお話聞き入る子どもたち

生徒と教師の全員が自分で読みたい本を自由に読む読書運動をはじめ、現在、出版業界が取り組んでいる子どもの読書推進のさまざまな活動が一目でわかるパネルを展示した。

③ブース内のステージでは、作家や読書アドバイザーによる読みきかせや、紙芝居の実演、工作教室等、親子で楽しめる催しを行った。

成果と課題

東京国際ブックフェア会場において、「法律」の理念の周知と実体化を目指した今回の活動は、予定通り適切な時期、場所、客層を得ることができた。「セミナー」ではオピニオンリーダーからの提言があり、「記念ブース」では、特に

2000年「子ども読書年」の実施や、「ブックスタート」開始等の効果で、読書（本）に関心をもつ多くの親子の参加が増え、普及活動として質的にも量的にも大きな成果を得たと考える。

今後の課題は「法律」の基本理念の実現、各自治体で策定される「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の具体的実施等、国や自治体の動向を注視し、民間の活動を粘り強く続けることが必要と考える。

団体の概要

昭和32年設立の書籍出版事業者の団体（会員社481社・平成15年7月現在）。出版界が直面している、著作権、言論・出版の自由と責任、流通改善、電子化、図書館、国語、読書推進活動等の諸問題についての調査・研究・提言。東京国際ブックフェアの開催、海外出版界との交流、出版文化の紹介事業等を幅広く実施。

みんなで読もう・遊ぼう・楽しもう ～バリアフリー絵本展～

実施団体名 バリアフリー絵本展実行委員会
連絡先 〒207-0014 東京都東大和市南街1-18-3
 TEL：042-566-5403 FAX：042-566-5403

活動の概要

障害がある子どもの読書環境の状況を整理するとともに、ワークショップの体験や講演会の話聞くことを通して、絵本が全ての子どもたちに楽しみと力を与えていくバリアフリーなものになっていく一助となるよう絵本展等を実施した。

活動の内容

(1)バリアフリー絵本展

200冊ほどの国内のバリアフリー絵本といわれる絵本を集め、一般の場で展示することで、障害のあるなしに関わらず子どもたちが同じ絵本を媒介に楽しいひと時を共に過ごす機会を作った。

(2)講演会

バリアフリー絵本のあり方を考えるひとつの契機となるように講演会を企画した。講師には見える人と見えない人が一緒に楽しめる絵本作りに取り組んでいる「てんやく絵本ふれあい文庫代表」や、全国でワークショップを通じ布の絵本の作り手の養成と普及に努めている「東京布の絵本連絡会」の関係者の協力を得て行った。

(3)ワークショップ

てんやく絵本・布の絵本作りの一部を体験することで、バリアフリー絵本についての理解を深め合った。

熊本会場(9月7・8日)

絵本展：飽田公民館の本まつりの一環として展示

講演会

ワークショップ：点字体験など

姫路会場(11月16・17日)

絵本展：絵本の読み聞かせ、指遊び人形劇などの実施
 地元の手作りの布の絵本・遊具の展示
 講演会

ワークショップ：布の絵本作り・紙工作・折り紙遊び

秋田会場(11月28日～12月1日)

絵本展：「よみきかせ30(サンマル)運動」の関連で開催

講演会

秋田大学附属養護学校中1わくわく座公演

福岡会場(12月10日～26日)

絵本展：「赤ちゃんからお年寄りの方まで誰でも楽しめます」のキャッチフレーズで実施

講演会

茨城会場(1月11日～13日)

絵本展：「ふれてみようやさしさの世界」をテーマに開催

講演会&コンサート

奈良会場(1月24日～26日)

絵本展：地元のさわる絵本の会3団体の作品も展示

講演会

ワークショップ：さわる絵本作り体験、介助犬・点訳・音訳体験、絵本と遊ぼう、バリアフリーを探そうなど多彩なプログラムで実施

埼玉会場(3月1日～11日)

絵本展：フリースペースの一室で、展示本でのお話も開催

講演会

大阪会場(3月17日～28日)

絵本展：地元のさわる絵本や布の絵本も展示

ワークショップ：「てんやく絵本を作ってみよう!」を実施

成果と課題

各開催地では来場者のほとんどが、こうした絵本の存在をはじめて知り、理解を深めてくれた。こうした絵本の存在を知ってもらいその必要性を認めていただく活動を継続し、更なる絵本開発普及につなげていきたい。また、こうした絵本分野の総合的なネットワーク作りもしていきたい。



てんやく絵本をつくってみよう

団体の概要

バリアフリー絵本の現状の把握と研究開発、そして一般の場への普及を目的に絵本展の実施や研究会などの活動をしている。

第12回くまもとお話の交流会

実施団体名 文庫とお話の会連絡会くまもと

連絡先 〒862-0929 熊本県熊本市西原1丁目15-24

TEL : 096-382-5090 FAX : 096-382-5090

E-mail : biwanokibunko@kodomonohon.com URL : http://www.kodomonohon.com

活動の概要

熊本県内で活動している子ども文庫やお話のグループの人たちを中心に、お話や読み聞かせに関心のある人たちが、毎年1回、県民文化祭開催地で一堂に会し、お話の交流を通して、連携を深め、読書活動推進を図っている。

活動の内容

10月下旬の土曜日午後から日曜日にかけて、1泊2日の日程で実施

事前に「ミニおはなし会」

活動をより浸透させるために、県民文化祭開催地域の2ヶ所で、5月と7月に「ミニおはなし会」を行った。

「くまもとお話の交流会」
(10/26~27)

①4つの部屋でおはなし会

「幼児のためのお話の部屋」、「小

学生のためのお話の部屋」、「日本の昔話の部屋」、「創作と世界の昔話の部屋」の4つの部屋に分けて行った。

語り手のゲストに3人の講師を招き、おはなし会ではゲストを中心に、熊本県内の語り手が語って交流を深めた。

そこでは、日本の昔話「猿の婿どん」「小僧と鬼婆」「かちかちやま」「うりこ姫」や、世界の昔話「ひなどり」とネコ「魔法のオレンジの木」「ブンクマインチャ」「ねずの木の話」や、創作童話「くまくんのけがわのマント」などのお話をたっぷり聞いて楽しんだ。

会場には、語られたお話の本を展示して、子どもたちを本の世界へ誘った。

子どもたちの部屋は、休憩後の後半は、工作の時間にした。折り紙をしたり、「船長さんの帽子」のお話を新聞紙で作って遊んだりし



お話の部屋で熱心に聞き入る子どもたち②

た。

②文楽「雪おんな」鑑賞

2日目は、清和文楽館でラフカディオハーンの「雪おんな」を鑑賞し、交流を深めた。

成果と課題

開催地域での、読み聞かせボランティア活動やお話会など、子どもたちのための読書活動推進の新たな発掘に繋がっている。

現在、県内の読書活動推進を図るため、「文庫とお話の会連絡会くまもと」の組織作りを進めているので、助成活動の実施は、その組織の基盤作りと、活動の促進にも大いに役立っている。

課題は、開催地の人たちによる交流会開催が、いずれの開催地においても、ひとり立ちして可能になること。



お話の部屋で熱心に聞き入る子どもたち①

団体の概要

子ども文庫、お話のグループ、学校図書ボランティアと公共図書館が連携して子どもの読書推進を図ることを目的としている。毎年、これらのグループと図書館の情報等を掲載した情報誌『みんなあつまれ!』と、年6回『くまもとつうしん』を発行。毎年「くまもとお話の交流会」を開催している。

インタラクティブソフト「キノコを知ろう キノコに学ぼう キノコと暮らそう」

実施団体名 特定非営利活動法人NPOぐんま
連絡先 〒370-0831 群馬県高崎市新町116-1 第一生命ビル8階
 TEL：027-326-6677 FAX：027-326-6688
 URL：http://www.npogunma.or.jp/

教材の概要

近年キノコは、食物としてだけでなく、薬理作用や生態系での役割など様々な面で注目されている。しかし有毒なものもあり、子どもたちにキノコの全体像を理解させ付き合い方を体得させるため開発したCD-ROM教材。キノコ栽培キットとセットで配布。利用対象者は小学校高学年以上誰でも。

内容は、次の5ステップから構成される。

「キノコとくらし」

キノコと人の歴史、世界のキノコめぐり、食べられるキノコと料理、キノコのおもちゃ・イベントを紹介。

「キノコって何？」

キノコは一体どのような存在なのかを植物と対比しながら学習。キノコの生態や特性、多様性を理解。

「キノコと健康」

キノコの薬理作用を臨床結果の資料(写真やグラフ)をふんだんに使って説明。薬理効果の面から国産キノコと輸入キノコの違いも検証。

「キノコと環境」

森のキノコの関係から始めて、キノコので紙ができる様子やダイオキシン分解の様子を学習。

「キノコと産業」

栽培を中心にキノコ産業の現状と将来像を紹介。

に利用できるよう、全体的に絵や写真を多用し、視覚で学習できるよう工夫している。

また、インタラクティブ性(対話型)を重視し、それぞれの場面で選択肢の中から自分の思うものを選んだり、画面内に設置されたツマミを動かすことで画面が切り替わるようなシステムになっている。

自然観察会などの自然体験活動や、環境保全活動を実施している団体から、キノコを題材とした活動を実施するには専門性の高い指導者の確保が不可欠であり、活動になかなか取組むことが難しいという声を聞いていたので、この教材を利用した活動の裾野が広がるような工夫をしている。

ステップの最後には、ソフトの

監修をお願いした高崎健康福祉大学の江口文陽(ふみお)助教授によるまとめ動画を収録している。

加えて、本ソフトには「図かん」と「辞書」を用意しており、食べられるか、有毒かなどといったことを調べることが可能となっており、実際の活動場面で役立てることができる。

教材の普及状況

教材の容量が大きいので、CD-ROMで無料配布した。

菌床栽培の支援や、必要に応じた情報の修正・提供はNPOぐんまのホームページで実施。

普及の一環として、群馬県と福岡県で本教材を活用したフォーラムを開始。他地域での実施も可。



「キノコとくらし」の一画面

教材の活用法

子どもたちが興味をもって活動

団体の概要

NPOぐんまは、1999年に認証・登記された市民立のシンクタンク。「まちづくり」「環境保全」「他団体活動支援」が3大事業。教材開発は環境保全活動の柱の一つとして実施。利根川上・中流域で水質検査も行っている。

科学の祭典「科学実験Web2002」

実施団体名 科学の祭典「科学実験Web2002」運営委員会
連絡先 「科学の祭典」事務局
 TEL：03-3212-8447
 URL：http://ppd.jsf.or.jp/jikkenn/index.html

教材の概要

子どもたちが物づくりの面白さや技術の素晴らしさを体験したいと思ってもなかなかその機会に恵まれない。そのような子どもたちに、インターネットを通して自宅や学校などで自分自身が身近な材料で実験できるように工夫した教材である。小学校の高学年を対象としているが、小学校低学年でも楽しむこともできる内容とした。

(取り上げた実験の例)

- ふしぎなフィルムケース—偏光で見た世界
- どんな模様ができるかな？新万華鏡パート2
- 煮干しのお腹から海の環境を考えよう
- くるくるアニメ
- シャボン玉の中からシャボン玉を飛ばそう

教材の活用法

本教材は、インターネット上のホームページとして公開されているので、標準的なインターネットブラウザがあれば誰でも見ることができる。ただし、実験の動画像が入っているので、処理能力が高いコンピュータの方がより快適に使うことができる。

これらの実験を「ジャンル」別、「イメージ」別、「一覧」から選ぶことができる。また、選んだ実験には実験の映像とそれぞれ次のような情報（ボタン）が埋め込まれている。

1. やってみよう

実際に実験をやるために必要な情報を掲載。

最初に、用意しなければならない物のリストがあるのでホームセンター、コンビニエンスストア、薬局などで材料を買ってくる。できるだけ簡単に入手できる材料にしてある。また、道具などは自分の家にある物を使う。

次に、その材料、道具を使って、「作り方」「やり方」を掲載しており、それを見ながらそのままできるようになっている。

最後に、安全上の注意事項を掲載している。

2. 説明

どうしてこのような現象が起きるのか、実験の原理などを解説。

3. ワンポイント

実験を成功させるためのツボ、考えて欲しいことなど、先生からのメッセージを「ワンポイント」として収録。

4. 作った人

肩書きだけでなく、いつものどのような事をしているのかなど、子どもたちにできるだけ親しみを持ってもらえるように実験を作った人を紹介。自身のホームページなどがある場合には併せて紹介。

5. 関連リンク

本教材の実験を体験し、さらに興味を持った子どもたちのためのリンク集を用意。子どもにとって分かり易いこと、内容的に信頼できることを基準に選定。

子どもの「科学の祭典」体験記や「科学の祭典」の概要なども収録。

教材の普及状況

この教材はインターネットで使うため、インターネット上での普及や、全国各地で開催される「科学の祭典」において本ホームページの紹介・普及を図ると同時に実験の追加など内容面の充実を図っていくことを考えている。



「ふしぎなフィルムケース」の画面

団体の概要

「科学の祭典」科学実験Web2002運営委員は実際の催しである「科学の祭典」の企画・運営、科学実験に関する専門家からなる委員会、ホームページの運営を行っている。また、子どもからの実験の問い合わせなどにも応じている。

自然環境シミュレーター「ビオトープ」をつくろう！

実施団体名 兵庫総合学習支援研究会

連絡先 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 兵庫県立「人と自然の博物館」内
TEL：079-559-2003 FAX：079-559-2033
URL：http://biotop.hitohaku.jp

教材の概要

『バーチャル体験からリアルな体験学習へ！』本教材(上記URL参照)は子供たちの自然に対する感性や知識を生み、生命への慈しみの心を育て、「人と自然の共生」が創りあげる循環(環境)の豊かさを教え、青少年の人間形成に役立てることを目的に開発したソフトである。学校ビオトープづくりにとどまらず、地域や広域を含めたビオトープネットワークづくりへと知見を広げ、総合的なビオトープの情報発信を進めることで、子供たちを体験学習へと導くものである。また、学校や地域での取り組みや利用者の方々からの情報や意見、ノウハウなどを随時更新していく、進化型のサイトである。コンテンツは以下の通り。

- (1) **基礎知識編「ビオトープって何？」**…ビオトープの作り方を、ビデオを用いて紹介。生物についての知識から景観や循環などビオトープに関わる基礎事項が盛りだくさん！
- (2) **ビオトープシミュレーター「ビオトープ」をつくろう！**…ビオトープづくりをバーチャルで体験。ビオトープの計画やデザインによって、出現する生物の種数が多くなったり少なくなったりする。また、ビオトープに隣接する環境や広域の環境などとのつながりを直感的に学ぶこともできる。
- (3) **ビオトープハウツーQ&A**…トンボやチョウがくるビオトープ



「ビオトープ」シミュレーターのトップ画面

のつくり方や、景観のつくり方など、ビオトープづくりに関する質問に博物館の研究者が答える。

- (4) **活用の視点**…ビオトープの維持管理のポイントや地域との関わり方、ビオトープ復元に際する注意事項などを記載。
- (5) **電子会議室**…ビオトープに関心を持つ皆さんの情報交換の場。また、メーリングリストに登録いただいた方には、新着情報の案内などを送信。

教材の活用法

本教材は、計画から設計、モニタリングといったビオトープづくりの効率的な進め方など、事前学習用の教材として開発した。シミュレーターを用いた学習は、子供

たちの自然に対する興味を引く一つのツールとして有効と考えている。

また、ビオトープ完成後の活用は多くの現場で課題となっているが、その活用法について、博物館の研究者や学校の先生方が積極的に当サイトに情報を提供することで、現場では常に新しいことが実践できると考えられる。そういった情報交換の場として活用可能である。

教材の普及状況

人と自然の博物館のホームページ内(上記URL参照)に公開し、自由に教材として使用できるようにしている。

また、これの製作に関わった研究者を中心に、セミナーや講演で積極的に活用している。

団体の概要

学社融合の視点に立ち、学校教育の支援に寄与することを目的とする団体である。具体的な事業としては、博物館と学校が連携した学習プログラムや教材の共同開発、総合的な学習に活用できる学習環境整備の支援などを行っている。

自然探検・博物誌づくり

実施団体名 財団法人日本博物館協会
連絡先 〒100-8925 東京都千代田区霞が関3-3-1 尚友会館
 TEL：03-3591-7190 FAX：03-3591-7170
 E-mail：webmaster@j-muse.or.jp URL：http://www.j-muse.jp

教材の概要

現在の子どもに不足している自然体験や自然素材を活用する体験を促すため、博物館が培っている自然観察やものづくりのノウハウを川、林、海、歴史のジャンルごとに、博物館が行っている代表的な活動をインターネット及び当協会のホームページ「やまびこネット」を通じて追体験できるように構成している。

また、導入の部分をロールプレイ風にし、テレビゲーム世代の子どもたちに受入れられ易いようにしている。

教材の構成は、次の通り。

- 川**：「清水の水・淡水の生き物」、「さけの遡上と採卵を見てみよう」、「野鳥観察会」の3プログラム。
- 林**：「もみじでしおりをつくろう」、「落ち葉の観察」、「オールナイト昆虫観察」、「自然の中で生

活する技術を身につけよう」、「化石を掘ろう～久能山の化石」の5プログラム。

海：「アンモナイトが産出する地層を観察しよう」、「夜の水族館探検」、「三保の海の生き物～地引網を引いて調べよう」、「海岸の漂着物を調べよう～ビーチコーミング」の4プログラム。

歴史：「高原の縄文王国収穫祭」、「埴輪づくり」、「古代米を炊いてみよう」、「中山道・浦和宿探検」の4プログラム。

教材の活用法

いずれのプログラムについても、行事全体の説明とその流れを示すスケジュールが、親しみの持てるように担当者の顔写真とともに示している。そして、各場面における子どもの参加状況を示す多くの写真と担当者の説明、さらには動

画により、インターネットを通じて臨場感を持って追体験し、自然・歴史についての興味と理解が自ずと深まるようにしている。

この種のプログラムに興味がある子どもや両親のために、これらの行事を主催した博物館を示すとともに、「やまびこネット」にリンクしている博物館のホームページにアクセスできるようにしている。

また、閲覧者の回線環境に合わせて、低回線用のシンプル版と、中高速回線用のブロードバンド版のいずれかを選択できるようにしている。

さらに、この種の体験活動を実施しようとする保護者や青少年指導者のために、自然観察や歴史探索を行う際の心構え、注意事項、準備する物、観察や探索のヒント集も掲載している。

教材の普及状況

平成10年以来開設し、多くのアクセスがなされ、リンク希望も多い「やまびこネット」に載せ、子どもや保護者などへの普及を図っている。

さらに、回線の制約無しにパソコン単体でも動画を容易に利用できるよう、CD-ROM版を作成し、青少年団体、自然の家、自然系・歴史系博物館に配付している。

本教材の作成に当たっては、青少年団体の参加を得ているので、その利用はされているが、今後は他の青少年団体や博物館にも利用されえるよう周知を図っていくことが課題である。



自然探検・博物誌づくりのトップ画面

団体の概要

日本博物館協会は、全国の主要な博物館を構成員として、親しめる博物館づくりを目指し、博物館による子どもを対象とする教育普及活動の充実や、地域社会との連携を進めている。その一環として、ホームページ「やまびこネット」のコンテンツの充実に努めている。

体験！！からくり半蔵の世界～うごきのメカニズムをさぐる～

実施団体名 財団法人イケマン人形文化保存財団
連絡先 〒616-8431 京都府京都市右京区嵯峨鳥居本佛餉田町12
 TEL：075-882-1421 FAX：075-882-1441
 URL：http://www.ningyonoie.jp/

教材の概要

江戸時代末期のからくり人形は、今日のハイテク産業技術の基盤とも言えるロボット工学の原点である。そのことを踏まえ、当時の科学者が創意に工夫を凝らし、技術の粋を集めた「動き」と「制御」の基本メカニズムに焦点を当てた。小学校高学年から中学生が「からくり」の基本原則である動きと制御を知ること、広く工学に対する関心が育ち、新規工夫や発明へとつながる学習の動機付けをしている。

教材の活用法

ふんだんな映像とイラストレーション図解を使い、構造や仕組みを明確にしている。ガイド役にキャラクター「HANZOくん」を登場させることで更に親しみやすくし、教材の内容解明の誘導をしている。

基本的にはパソコンのマウスのクリック操作のみで視聴できるようにし、インタラクティブ性により何度もやり直しができるので、その都度効果を確認するシミュレーションができる。からくりの基礎知識を深めながら、江戸時代の創意工夫がハイテク産業を生み、現代のロボットにまで発展した背景にある日本文化の大切さも学ぶことができる。

科学センター、科学に興味を持ってもらおうと結成したボランティア団体、科学テキストや科学絵



教材を使用する子どもたち

本などの科学に関する読書会グループなど科学を通して楽しむ場所の他、学校の理科（物理・化学）、社会科、総合学習の場などで活用されている。

教材の普及状況

「体験！！からくり半蔵の世界、うごきのメカニズムをさぐる」と題した冊子を作成し、京都市青少年科学センター、全国の博物館の中で特に青少年に対して熱心に取組みをしている博物館、近畿圏の小・中学校宛てに申込用紙を冊子とともに送付し、希望者に無償でCD-ROMを送付している。

京都新聞に「江戸期に京で発展したからくり人形の仕組みをCD-

ROMで見せる」と大きく取り上げられ掲載された。その反響は非常に大きく、多くの科学団体の他、教育委員会、地域の元気コミュニティ、子ども会、少年補導センター、家電工事センター、高校の科学部と多数の申込があった。

当博物館のホールに設置するパソコンにもCD-ROMを備え付け、入館者が誰でも自由に利用できるようにしている他、インターネットでも公開している。

団体の概要

平成9年に「私立博物館における青少年に対する学習機会の充実に関する基準を満たしている博物館」として文部省から認可を受け、青少年の育成に心を注いでいる。学校の休日に合わせて博物館の無料開放を行い、人形への更なる理解を養うとともに、愛ある人形とのスキンシップ等、さまざまなイベントを行っている。特に、夏休みには青少年デーや府民デーを設け、親子で楽しむ科学からくりの工作を指導している。からくりの糸の引き具合や重さの加減、風の力など楽しみながら学ぶことが多く、科学や機械工学への動機付けをしている。

平成15年度 応募・採択状況

◇活動区分別応募・採択状況

(単位:千円)

活動区分	応募件数	採択件数	内定額
子どもの体験活動	1,859	1,685	1,258,593
子どもの読書活動	352	319	170,781
教材開発・普及活動	94	27	247,493
合計	2,305	2,031	1,676,867

◇子どもの体験活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
北海道	83	75	45,718
青森県	17	17	17,242
岩手県	22	20	6,157
宮城県	21	20	15,193
秋田県	14	11	3,805
山形県	16	13	6,637
福島県	31	26	15,378
茨城県	46	41	29,545
栃木県	17	16	8,206
群馬県	15	14	8,662
埼玉県	40	35	17,283
千葉県	53	52	30,258
東京都	305	279	443,258
神奈川県	51	49	34,622
新潟県	25	25	11,968
富山県	20	18	17,587
石川県	17	17	7,289
福井県	30	28	19,318
山梨県	24	23	20,054
長野県	67	59	41,578
岐阜県	33	27	21,043
静岡県	43	39	28,309
愛知県	39	35	27,432
三重県	30	29	14,650
滋賀県	65	53	24,428
京都府	71	63	29,587
大阪府	175	158	85,302
兵庫県	61	56	26,967
奈良県	25	23	8,054
和歌山県	15	15	8,900
鳥取県	16	16	6,467
島根県	18	18	10,767
岡山県	34	28	12,990
広島県	14	10	5,587
山口県	23	22	8,482
徳島県	31	28	20,127
香川県	9	9	4,131
愛媛県	15	13	7,066
高知県	11	10	5,235
福岡県	59	55	33,128
佐賀県	5	5	1,617
長崎県	27	20	7,926
熊本県	40	36	22,986
大分県	11	11	5,035
宮崎県	13	13	10,189
鹿児島県	52	46	15,204
沖縄県	10	9	7,226
総計	1,859	1,685	1,258,593

※応募団体の所在地である都道府県別に集計した件数・金額である。(以下、同じ)

◇子どもの読書活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
北海道	13	13	4,742
青森県	3	3	753
岩手県	3	3	597
宮城県	2	2	4,135
秋田県	1	1	100
山形県	1	1	183
福島県	12	10	7,390
茨城県	5	4	1,262
栃木県	10	9	2,814
群馬県	0	0	0
埼玉県	5	5	776
千葉県	4	3	992
東京都	34	31	47,354
神奈川県	9	8	1,444
新潟県	9	9	3,508
富山県	1	1	100
石川県	4	3	1,014
福井県	2	2	63
山梨県	2	2	1,133
長野県	23	20	5,796
岐阜県	1	1	327
静岡県	7	6	1,760
愛知県	2	2	3,830
三重県	4	4	866

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
滋賀県	17	15	9,450
京都府	11	10	2,775
大阪府	47	42	10,099
兵庫県	11	8	6,552
奈良県	11	10	5,510
和歌山県	1	1	578
鳥取県	5	4	5,027
島根県	10	10	3,557
岡山県	5	4	1,914
広島県	3	2	133
山口県	4	4	4,685
徳島県	8	8	1,896
香川県	6	6	1,413
愛媛県	3	2	274
高知県	3	2	876
福岡県	19	17	5,040
佐賀県	2	2	1,256
長崎県	4	4	321
熊本県	5	5	6,201
大分県	2	2	816
宮崎県	6	6	3,073
鹿児島県	10	10	3,865
沖縄県	2	2	4,531
総計	352	319	170,781

◇教材開発・普及活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
北海道	4	0	0
福島県	2	0	0
群馬県	1	0	0
埼玉県	3	2	4,864
東京都	38	12	137,572
神奈川県	1	1	6,236
富山県	1	0	0
石川県	1	0	0
岐阜県	5	1	5,580
静岡県	6	2	29,427
愛知県	4	0	0
三重県	1	1	6,651
京都府	1	0	0

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
大阪府	10	5	42,361
兵庫県	4	2	8,229
奈良県	1	0	0
和歌山県	1	0	0
鳥取県	1	0	0
岡山県	2	0	0
広島県	1	0	0
山口県	1	0	0
香川県	1	0	0
福岡県	1	0	0
佐賀県	1	0	0
長崎県	2	1	6,573
総計	94	27	247,493

子ども読書の日記念“子どもの読書活動推進フォーラム”

4月23日の「子ども読書の日」に皇太子同妃両殿下をお迎えし、平成15年度「子ども読書の日記念“子どもの読書活動推進フォーラム”」を開催しました。

これは、国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行うことを目的に開催したもので、全国から集まった表彰対象の読書活動優秀実践校、子どもの読書活動優秀図書館及び優秀実践団体(者)の代表者のほか、教育委員会、図書館、出版関係、読書活動団体などから約550名の参加がありました。

また、来賓として、子どもの未来を考える議員連盟会長で国土交通大臣の扇千景参議院議員をはじめ、子どもの未来を考える議員連盟の岩永峯一衆議院議員、肥田美代子衆議院議員、松あきら参議院議員、国立国会図書館国際子ども図書館の富田美樹子館長の皆様のご列席をいただきました。

式典は、河村建夫文部科学副大臣の主催者挨拶の後、皇太子妃殿下よりお言葉(別掲)を賜り、さらに、来賓を代表して、子どもの未来を考える議員連盟会長・国土交通大臣の扇千景参議院議員からご祝辞をいただきました。



主催者挨拶を行う河村文部科学副大臣



来賓祝辞を述べる子どもの未来を考える議員連盟会長・国土交通大臣の扇千景参議院議員

続いて、読書活動優秀実践校(161校)・図書館(51館)・団体(者)(58)の代表者に河村建夫文部科学副大臣から文部科学大臣表彰が行われ、引続き作家で民話研究者の松谷みよ子氏による記念講演が行われました。

最後に、表彰を受けた代表者による「子どもの読書活動推進実践事例報告」が行われ、子どもバス図書館「なかよし」(秋田県)、熊



事例報告を行う「愛知県立美和高等学校」の代表者



事例報告を行う「子どもバス図書館「なかよし」」の代表者

本子どもの本の研究会(熊本県)、福島県郡山市立富田小学校、岐阜県可児市立中部中学校、東京都立南花畑養護学校、愛知県立美和高等学校、北海道恵庭市立図書館、千葉県浦安市立中央図書館の順で事例報告を行いました。

なお、本フォーラムの様子は、教育情報衛星通信ネットワーク(エル・ネット)で全国の公民館、図書館等に配信しました。

皇太子妃殿下のお言葉

『子ども読書の日』を記念して開催される『子どもの読書活動推進フォーラム』に、日ごろから子どもの読書活動に取り組まれている皆様方と共に出席できますことを、うれしく思います。

「子どもの読書活動の推進に関する法律」が一昨年制定され、今日4月23日が「子ども読書の日」に定められました。この日を記念して、子どもの読書活動についての理解と関心を高めるための催しが開かれますことは、大変意義の深いことと思います。これまで、子どもの読書活動を様々な形で支えてこられた多くの皆様方の努力に対し、心からの敬意を表しますとともに、本日表彰をお受けになります方々にお祝いを申し上げます。

私たちは、本を読むことによって知識を深めるだけでなく、様々な驚きや喜び、そして時には悲しみに出会います。本を通して、自分自身の体験を超えた未知の世界を

旅し、想像を膨らませることができることは素晴らしいことと思います。私たちの家庭では、この一年ほど、幼い子どもに絵本の読み聞かせをしておりますが、子どもが絵本のページにうれしそうに声を上げたり、にっこりとするのを目の当たりにする時、幼い子は幼い子なりに、絵本から沢山の楽しみを見いだしていることを実感し、子どもにとっての本の素晴らしさを改めて感じています。

近年、子どもたちの読書離れを心配する声もありますが、数多くの子どもたちが、良い本との出会いを通じて、心豊かに育っていくことを心から願いたいと思います。子どもたち一人一人が、読書の楽しさや喜びを発見し、そして本への関心を深めていく機会に恵まれますよう、ここに集われた皆様方の活動が、これから更に大きく実を結んでいくことを願い、ごあいさついたします」



開会式でお言葉を述べる皇太子妃殿下

日中韓子ども童話交流事業

事業の概要

日本・中国・韓国の子どもたちが一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知ってもらうとともに、お互いの文化を理解する機会を提供することにより、子どもの読書活動や体験活動の重要性について普及・啓発を図るため、超党派の国会議員で構成される「子どもの未来を考える議員連盟」（会長：扇千景国土交通大臣・参議院議員）の参画を得て「日中韓子ども童話交流2002」を実施しました。

事業は、東京、兵庫、大阪、奈良の各地を舞台に、小学校4年生から6年生の子ども91名（日本42名、中国25名、韓国24名）が集い、一週間の日程で行いました。

活動の内容

（1日目）

東京の日本青年館に集合。オリエンテーションの後、グループごとに自己紹介。

（2日目）

各国混成での10グループは、初の共同作業となるグループの旗作りに挑戦。午後から、東京・上野の国立国会図書館国際子ども図書館において、小泉内閣総理大臣をお迎えし結団式を行った後、館内で読書活動を行いました。歓迎夕食会には、高円宮妃殿下のご臨席をいただき和やかに交流会を楽しみました。

（3日目）

新幹線・バスを乗り継いで兵庫県淡路島に移動。竹馬乗りやこま回しなどを楽しむ「野



結団式で小泉内閣総理大臣は、「子どものときは遊ぶことが一番」とあいさつ



結団式で挨拶する実行委員会委員長・前内閣総理大臣の森喜朗衆議院議員

遊び」に挑戦。夜は地元の兵庫県立三原高等学校の郷土部による「淡路人形浄瑠璃」を鑑賞し、キャンプファイヤーで盛り上がりました。(4日目)

日本、中国、韓国に伝わる童話を読み聞かせ、子どもたちが感想を発表しあいました。午後は、帆船「日本丸」でクルージングの体験と北淡町震災記念公園の見学、夜は海洋冒険家・堀江謙一さんの講演と質疑応答で冒険への興味・関心を深めました。

(5日目)

10班に分かれメインイベントの三カ国の子どもたちの共同作業による紙芝居づくりの開始。児童文学作家の大西伝一郎さんの指導



野遊びを楽しむ子どもたち



三カ国の童話に聞き入る子どもたち

を受けて、主人公を、シカ（日本）、パンダ（中国）、トラ（韓国）とした物語の創作にお互いが意思疎通を図りながら取り組みました。午後から大阪に移動。夜は子どもたちが特技を披露し交流会を楽しみました。

（6日目）

紙芝居の絵をアドバイスをしあいながら完成。午後は中国、韓国などの世界の文化が結集した奈良・東大寺を見学し文化について学習しました。夜は紙芝居の発表会を開き、一週間の旅の思い出を織り込んだり、冒険心いっぱいファンタジーを創りました。言葉の壁を乗り越えた独創性あふれる作品ぞろいで、発表会では感動の輪が広がりました。

（7日目）

解散式。「これからも童話交流が続いてほしい」との宣言文を三カ国の子ども代表が読み上げ、別れを惜しみながら帰路につきました。



画用紙に絵を描き紙芝居を仕上げる子どもたち



驚きと笑いに包まれた紙芝居の発表会

宣 言

私たちは日中韓子ども童話交流に参加できてとてもうれしかったです。最初は三つの国は言葉や文化、歴史が違うからうまくいくかなと心配しましたが、身振り手振りで思ったことを伝えると気持ちが通じることがすぐにわかり、友達になることができました。

今回の交流でよかったのは童話を読み、書くことが面白いと思えるようになったことです。生活の習慣をはじめ違いを感じましたが、それ以上に同じなんだということ

がわかりました。何よりうれしかったのはこの一週間で新しい友達ができただけです。友達はみんなこれからもずっと心の中に残るでしょう。

私たちに新しい友達ができたと同時に、これからも童話交流が続き、たくさん子どもたちが友達になっていい思い出をつくってほしいと思います。

2002年8月25日

日中韓子ども童話交流2002参加者一同

子どもゆめ基金への寄附団体

平成14年度においては次の団体から寄附を頂いています。

(あいうえお順・敬称略)

- 株式会社アクアテックケーシーケー
- アクサ生命株式会社
- 株式会社アサヒ情報
- 旭シンクロテック株式会社
- 株式会社イトーキ
- 株式会社内田洋行
- 栄光電気株式会社
- 株式会社岡村製作所
- 株式会社宏隆
- コクヨ株式会社
- 財団法人社会経済生産性本部
- 有限会社住宅管理保証
- 有限会社鈴木商会
- 株式会社総合設備計画
- 株式会社大庄・庄や参宮橋店
- 株式会社泰平総合建設
- 高橋野線印刷株式会社
- タフカ株式会社
- 財団法人丹後あじわいの郷
- 中央無線タクシー協同組合
- 株式会社テムス
- 東西化学産業株式会社
- 株式会社東電通
- 東鉄ビルメン株式会社
- 東邦大学医学部附属大橋病院
- 二光事務器株式会社
- 日本シティビルサービス株式会社
- 日本テクノストラクチャア株式会社
- 社団法人日本経済青年協議会
- 株式会社日本旅行 赤坂海外旅行支店
- 広島市安佐北区役所市民課有志
- フジフューチャーズ株式会社
- 株式会社ホマレ電池
- 松下電器産業株式会社
- 三友株式会社
- 株式会社ミルボン
- 森永フードサービス株式会社
- 株式会社ヤノスポーツ
- 株式会社ヤマソーコーポレーション
- 有限会社ユウキ産業
- リンク情報システム株式会社
- 渡辺工業株式会社

子どもゆめ基金ガイド2003 2003年9月発行

編集 独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター 基金部

発行 独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

電話 03-3467-7201 (内線 管理課:2852 助成課:2862)

URL <http://cs.kodomo.nyc.go.jp/yume/index.html>

E-mail yume@nyc.go.jp

子どもゆめ基金へのご協力を

子どもゆめ基金は、国と民間が協力して青少年教育に関する団体が行う子どもの体験活動や読書活動などの振興を図り、子どもの健全育成に寄与するものです。

このため、個人、企業からもご協力をいただき、基金の拡大を図り、幅広くその活動を支援することになっています。

つきましては、下記の募金口座にて受付しております。広く皆様の御理解と御支援を何卒お願い申し上げます。

郵便振替口座

口座番号	10070-74540451
口座名義	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター 子どもゆめ基金

銀行口座

銀行名	東京三菱銀行 渋谷支店
口座番号	135-3025103
口座名義	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター 子どもゆめ基金

子どもゆめ基金に対する御寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

独立行政法人
国立オリンピック記念青少年総合センター